

日本立志編

一名修身軌範
于河岸貫著述

五

福岡第一師範學校
(學校圖書)

登錄號	第	號
精神科學門		
倫理學部		
日本倫理叢書		項
目	次	
全	冊ノ内第	冊
分類號	第	號
	150.118	

校圖書
倫理學部
修身軌範
冊數
番号
一〇
一〇架
一號

T1A1
22
C 43

日本立志編卷五目次

續密ノ部

人續密ノ氣象ナクシバアル可ラザル事ヲ叙ス 一丁

第一 藤原秀郷將門ヲ鄙ミタル事 二丁

第二 釋宗純師ノ病ニ侍シテ穢ヲ雪ギタル事 三丁

第三 北條氏康嫡子氏政ノ食スルヲ見テ落涙セル

事 四丁

第四 織田右府人ヲ細微ノ末ニ察シタル事 七丁

第五 森蘭九光秀ノ異圖アルヲ察セシ事 九丁

第六 北條氏直密柑ヲ徳川氏ニ贈リタル事 十一丁

第七 石田三成茶ヲ豊公ニ進メタル事 十三丁

第八 可児才藏兵學士ヲ擯斥シタル事 十五丁

圖書 和図書 遊



a 1 3 8 0 3 2 1 7 7 8 a

福岡教育大学蔵書

日本立志編 卷五 目次

第九 千利休死ヲ賜フニ及ビ遽色ナカリシ事 十六丁

第十 雲居和尚以年ノ惡戲ヲ為スヲ知リタル事 十九丁

十九丁

第十一 江村專齋平生些字ヲ持シタル事 二十丁

第十二 徳川秀忠公ノ縝密謹厚ナリシ事 二十三丁

第十三 紀州候頼宣其生母ニ牽牛花ヲ贈リタル事 二十四丁

二十四丁

第十四 板倉勝重其室ヲ戒メタル事 二十五丁

第十五 板倉重宗茶碓ヲ設ケテ訟ヲ聽キタル事 二十八丁

第十六 太田忠兵衛劍法ノ虚實ヲ論ジタル事 三十三丁

第十七 徳川吉宗公ノ勤儉縝密ナリシ事 三十四丁

第十八 并河簡亮其門人ト語リタル事 四十丁

第十九 木勝吉直諒ニシテ密行多カリシ事 四十一丁

第二十 二老人其家ヲ富マシタル事 四十四丁

第二十一 瀧鶴臺ノ妻絲團ヲ袖ニ藏セル事 四十六丁

第二十二 頼彌太郎文士疎懶ノ習氣ナカリシ事 四十七丁

日本立志編卷五

千河岸 貫一 撰述

續密ノ部

人續密ノ氣象ナクンバアルベカラザル事ヲ叙ス
 人續密ノ氣象ナカルベカラズ。何トナレバ豪邁ナリト雖
 氏、苟モ續密ナラザルトキハ、事ヲ敗ルコト多シ。夫ノ陳蕃
 ガ天下ヲ掃除セントスル志氣ハ、豪邁ト謂フベキナリ。而
 シテ其一室ヲ事トセザルモノハ、續密ヲ以タモノナリ。左
 レハ竇武ト共ニ、朝官ヲ除カンコトヲ謀リテ、其事ノ敗ブ
 ル、ニ至リケルハ、是レ漢室ノ天祐薄キニ由ルト雖ドモ、
 抑モ亦其圖謀スル所、續密ナラザルヲ以テナルベシ。之ニ
 反シテ、謝玄ガ弱晋八千ノ兵ヲ以テ、苻堅ガ百萬ノ銳ヲ折

ク、豪邁ト謂ツベシ。而シテ郝趙ガ所謂履屐之間不失其位トイフモノ。其績密ナルコト思フベシ。左ハ兵法ニ所謂守如處女出如脱兔トイフモノ。亦豪邁ノ志氣アリ。績密ノ氣象アルヲ謂フナリ。古ノ出將入相ト稱セラレハ名賢孰レモ此ニハ無有シタリト見ユ。又夫、秦西文明諸國先賢古哲ノ傳記ヲ視ヨ。或ハ神燈ノ風ニ動搖スルヲ見テ。時辰儀ニ用ウル振子ヲ發明シ。或ハ瓶湯ノ沸發スルニ由テ。蒸氣ヲ發明スル等。績密ノ注意。遂ニ其功ヲ後世ニ貽ル。然レバ則チ秦西文明國ノ學術技藝ハ。之ヲ前代ノ賢哲カ績密ニ由テ得タルモノナリト謂フベシ。我邦格物致知ノ學。之ヲ秦西ニ取ル。而シテ脩身齊家ノ要旨ニ至テハ。我邦賢哲ノ言行ノ。以テ模範トナスベキモノ多シ。讀者此編ニ

列記スル所ト夫、漢唐若クハ秦西ノ賢哲ノ言行ヲ見。集メテ大成シテ。其身ヲ脩メ心ヲ正フスルノ工夫ニ於テ。造次顛沛ニ懈ル所ナキニ至ラバ。其裨益豈鮮歟ナランヤ。

第一 藤原秀郷將門ヲ鄙ミタル事

藤原秀郷ハ。下野ノ押領使タリ。平將門相馬ノ里ニ據リ。常陸下總ヲ劫掠ス。天慶中。遂ニ下野上総武藏相摸ヲ攻メ。悉ク之ヲ下ダス。初メ將門藤原純友ト。比叡山ニ登リ。脩ミテ皇城ヲ瞰テ曰ク。大丈夫當サニ此ニ宅ルベキヤト。遂ニ與モニ友ヲ謀ル。純友マタ海島ニ據リ。兵ヲ舉ゲ。以テ遂カニ將門ニ應ズ。將門自ラ新皇ト稱シ。偽宮ヲ猿島郡石井ニ建テ。文武百官ヲ置ク。缺クル所ハ僭博士ノ之。朝廷參議藤原忠文ヲ以テ征東大將軍ト為シ。將門ヲ討伐セシム。未ダ至

ラス平貞盛秀郷ト兵ヲ合セ將門ヲ討テ之ヲ斬ル黨與悉ク誅ニ伏ス忠文途ヨリ還ル是ヨリ先キ秀郷將門ノ兵ヲ起スヲ聞キ營ニ造テ謁ヲ通ズ將門方ニ疑ヲ懐キ營ヲ擧テ出ツ秀郷其輕卒與ニ為スアルニ足ヲザルヲ知リ大ニ望ミヨ夫ヲ既ニシテ食ヲ命シ共ニ食ス飯粒前ニ墮ツ將門手ヲ以テ傾リニ之ヲ揮フ秀郷蓋之ヲ鄙ミ遂ニ貞盛ニ從ヒ將門ヲ攻殺ス

櫻所子曰將門ガ人トナリ慄悍ニシテ騎射ヲ善クス其少ヨシニ攝政藤原忠平朝臣ニ事ヘ檢非違使タルヲ求ムルニ首ヒズ之ニ由テ憤恨不平去テ東國ニ之ヲ叛ク謀ル其大事ヲ成スニ足ラザルヤ檢非違使ニ勲中シタルヲ以テモ知ルベシ然レドモ其關東六州ヲ取ルヤ威嚴頗ル熾ナリ秀郷亦コレニ隨ラ以名ヲ請ラントシタルモノ如シ其心術固ヨリ大義名分ヲ知ルモノニ非ス然リト雖其鬚ヲ搔リ飯ヲ揮フヲ見テ與モニ為スアルニ足ラザルヲ察シ貞盛ヲ助ケテ之ヲ攻ム是ニ於テ秀郷亦貳臣傳中ニ其名ヲ録セララルコトヲ免ヌカハ秀郷ヲシテ將門ヲ見ルノ時ニ於テ此續密ノ注意ヲ闕クモノナラシメバ秀郷ノ存亡果シテ如何ナランカ秀郷亦人ヲ知ルノ明ノルモノト謂フベキナリ

第二 釋宗純師ノ病ニ侍シテ穢ヲ雪ギタル事

釋宗純ハ後小松天皇ノ皇子トナリ母藤原氏宮ヲ出ルニ方リ身メルコトアリ應永元年宗純ヲ民家ニ生ム宗純天資英敏六歳ニシテ薙髮シ周建ト名ク後チ近江ノ祥瑞庵ニ

至リ。釋宗曇ニ從フ。宗純ト名ケ。一休ト號ス。後花園天皇御
シテ紫野ノ大徳寺ニ住セシム。文明十三年。年八十ニシテ
テ寂ス。宗純心機快活。豪放不羈。物我相忘。一物
志慈惠ニ存ス。隨テ得レバ。隨テ施ス。兒童劇愛シ。鳥獸
啄ム。其師ノ病ニ侍スル。手○口○心○皆○如○法○云○云○
浦ニ居ル。街市ニ出ル。コトニ一本劍ヲ持テ。之ヲ問フモノ
アレハ。則チ曰ク。世ノ偽知識ハ。猶ホ此木劍ノ如シ。之ヲ室
ニスレバ。則チ似タリ。之ヲ拔ケバ。則チ木片ノミ。人ヲ殺ス
コトスラ。猶ホ能クセス。何況ヤ人ヲ活センヤ。後小松天皇
將ニ崩ゼントス。宮ニ入テ法ヲ説カシム。天皇大ニ悦ビ。親
カラ先朝ノ寶墨。聖州飛白。數帖ヲ賜フト云フ。

櫻所子曰。佛門中ニ於テ。最モ豪放ノ風。磊落ノ習アル。禪者

中。巨擘ト稱セララル。モノナリ。既ニ世ノ利名榮辱ニ心ヲ
煩ハサズ。何ゾ世間ノ塵埃ヲ被ムランヤ。其貴賤ヲ一視シ。
得ル所アレバ。之ヲ施シ。心機快活ニシテ。一モ執著スル所
ナキ亦宜ナリ。而シテ如此豪放磊落ノ人ニシテ。其師ノ為
ニハ。親カラ穢ヲ雪グニ至ル。豈鄭重縝密ナリト謂ハサル
ベケンヤ。今世ノ士人。權門勢家ニ出入シ。利名ノ為ニ羈縛
セラレ。榮辱ノ為ニ懊惱セララル。其胸襟ノ洒々落々タル。光
風霽月モ啻ナラサル。一休禪師ノ如キモノアリヤ。恐クハ
得易カラザルベシ。然レバ則チ其豪放磊落。固ヨリ一休禪
師ニ若カズ。又其師父ノ病ニ侍シテ。能ク親カラ穢ヲ雪グ
ニ至ルカ。恐クハ其縝密鄭重ナルコトモ。亦一休禪師ニ如
カザル。猶ホ豪放磊落ノ氣象ノ企テ。及ブベカラサルモノ

ノ如クナラン。

第三 北條氏康嫡子氏政ノ食スルヲ見テ落涙セル事
 北條氏康ハ左京大夫氏綱ノ子ナリ。人トナリ沈毅ニシテ。
 寛猛兼濟ス。能ク禮節ヲ等フシ。威重自ラ持ス。功ヲ録シテ
 昇賤ヲ略セズ。其人ヲ用ウル。能ク其器ニ適ス。賞罰嚴明ナ
 リ。其下畏レテ之ヲ愛シ。人々自ラ奮セ。為メニ死ヲ効サン
 コトヲ願フ。其兵ヲ用ウルニ敏捷ナル。強敵ト境ヲ接シ連
 年干戈ヲ交エ。未ダ嘗テ其鋒ヲ挫カズ。威關左ニ震ヘリ。一
 日。嫡子氏政侍食ス。氏康蒼然トシテ涕ヲ出シテ曰ク。北條
 氏ハ運命ハ我ニシテマサニ終リヲ告ゲントス。何ト
 ナレバ。令氏政が食スルヲ視ルニ。一飯ニ豉羹ヲ和スルコ
 ト。二回ニ及ベリ。凡ソ人ハ貴賤トナク。日ニ食スルコトニ

次、嘗時ハニナレバ。鍛鍊シ習熟セザルハ。ナシ一飯ニ豉羹
 フ和スルニ。其分量ヲ譜ムセズ。足ラザルヲ以テ再ビ之ヲ
 和スルモノハ。豈蠢愚ニアラズヤ。朝餉晚膳。日ニ之ヲ為ス。
 事ニシテ。猶ホ且ツ然リ。何況ヤ古來難ムズル所ナル無形
 ハ。人心ヲ鑑知スルニ。教テヲヤ。其必ズ能クスベカラザル
 コト。明カナリ。人ヲ知リ士ヲ用ウルコト。アタハスンバ。良
 キ士ヲ養フコト。能ハズ。士ヲ養フ能ハザルトキハ。方今ハ
 群雄天下ニ割據スルノ時ナリ。我目一タヒ。眼セバ。遺骸未
 ダ冷カナラザルニ。強將勳敵。忽テ我が境域ヲ蹂躪センコ
 ト。疑ヒフ容レザル所ナリ。是我ニシテ。北條氏ノ運命
 終リヲ告グルト。謂フ所以ナリト。

櫻所子曰。氏康ノ敏慧ナル。嘗ニ攻城野戰ノ事ノミニアラ

ズ。マタ人ヲ用ウル能ク其器材ニ適スルノミナラズ其子
ヲ見ルマタ爛然タル眼光アルモノナリ。而シテ其氏政ガ
父祖ノ業ヲ継業スルニ足ラザルコトヲ看破スルハ夫ノ
一飯ニ致羹ヲ和スルコト。二皿ニ及ベルヲ以テナリ。氏康
ノ意ヲ細瑣ナル舉措ニ用ウル。至テ縝密ナリト謂フベキ
ナリ。而テ致羹ヲ和スルノ分量ヲ知ラザルヲ見テ人ノ知
リ士ヲ用ウルノ材ナキヲ知ル。明敏ナリト謂フベシ。左レ
バ氏政ガ粗慢ニシテ事物ニ通ゼザル。嘗テ刈麥ヲ馱シテ
過グル者ヲ見テ指シテ左右ニ問テ曰ク。彼ハ何トイフ物
ゾ。左右曰ク刈麥ナリト。氏政曰ク。然ラバ則チ盃ノ炊キ以
テ座客ニ供セザルヤト。人其菽麥ヲ辨セザルヲ嗤フ。氏政
ト雖ドモ亦白痴ニハアラザルナリ。唯其富貴ニ生長シテ。

意ヲ世ノ百般ノ事物ニ注グノ周密ナラザルヲ以テナリ。
而シテ北條氏ガ關東八州ヲ據有シ。五世ノ隆昌ヲ致スト
稱スト雖モ其實ハ三世即チ氏康ノ世ヲ終フルマデニ止
ル。氏政氏直ノ如キハ共ニ道フニ足ルモノナシ。唯父祖ノ
餘澤ニ由テ其盛榮ヲ保チテ天正ノ時ニ及ベルノミ。氏康
ノ我一世ニシテ北條氏ノ運命終ルト謂フモノ。鑑識アル
言ト謂フベキナリ。思フニ特リ氏政ノミナラズ富榮ニ生
長スルモノハ。スベテ意ヲ諸般ノ事物ニ用ウルコト疎ニ
シテ。菽麥ヲ辨セザルモノ多シ。故ニ疾病事故等。不幸ニ遭
逢シテ其資産ヲ失フニ至レバ。蹉跎轉軻。頗ル窮乏ヲ致ス
モノ。世其例シ歎ナカラス。况ヤ家ニ資産ナクシテ。而シテ
粗豪ノ態ヲ學ビ。細故瑣事ニ意ヲ用ウルヲ以テ。大文吏ノ

マサニ為スベキ所ニアラストシ。禮節ヲ守リ。儀容ヲ正ア
スル人ヲ以テ。邊幅ヲ修飾スルノ小人ナリトシ。質素節約
ヲ事トスル者ヲ以テ。鄙吝ニシテ。共ニ益スベカラサルガ
如クス。此等ノ風習ニ染著セバ。衰身敗家立ドコロニ至リ。
溝中ノ瘠タルヲ免カル。モノハ幸ナリ。試ミニ視ヨ。天下
ノ事ハ。大小異ナリト雖ドモ。理ハ則チ同ジ。各自ノ財産ハ。
恰カモ昔時割據ノ英雄ガ。土地人民。城寨甲兵ヲ有スルガ
如シ。而シテ賣買抵當等ノ方法アル。搏噬攘奪。互ヒニ勝敗
ヲ争フト何ゾ異ナラン。然レバ則チ人ノ社會ニ在ル。一タ
ビ縝密ノ用意ヲ怠ルトキハ。姦猾ノ輩其虚ヲ衝キ。窮鬼貧
神其隙ニ乘ズ。一家ノ運命。茲ニ其終リヲ告ゲ。一身ノ命脈。
亦方ニ且タニ迫リ。三尺ノ組其頸ヲ絞シ。一丈ノ水其軀ヲ

溺ラスノ止ムヲ得ザリニ至ル者アリ。豈ニ帝ニ北條氏ガ
昔時ノ物語ノミナランヤ。看者宜ク自ラ儆戒シテ。疎微ヲ
去ラ縝密ナランコヲ要スレバ。則チ可ナリ。

第四 織田右府人ヲ細微ノ末ニ察シタル事

織田右府。幼字ハ吉法師。父ヲ信秀ト曰フ。信長ト號ス。人ト
ナリ英邁ニシテ大志アリ。永祿二年。天皇人ヲシテ密旨ヲ
齎ラシ。公ニ囑スルニ撥乱反正ノ事ヲ以テス。乃チ命ヲ拜
シ。十一年九月。軍ヲ整ヒテ京都ニ入ル。綿令叢明ニシテ。秋
臺犯サズ。京都ノ士民大ニ悦ブ。公常ニ王室ノ陵夷シ。宮闈
ノ頽廢スルヲ歎ジ。其將士ヲシテ役ヲ監セシメ以テ大内
ヲ修ヌ。天正中。近畿二十餘州ヲ定メ。足利氏ニ代テ政ヲ為
ス。慨然トシテ天下ヲ平定シ。王室ヲ再興スルヲ以テ。已レ

ガ任ト為ス。功業就ルニ垂ントシテ。其臣光秀ガタメニ弑
 セラル。年四十九。從二位右大臣ニ至リ。從一位太政大臣ヲ
 謚ル。公ガ性虚飾ヲ喜バズ。廷臣或ハ征夷大將軍タラシコ
 トノ勸ム。公曰ク。吾何ゾ邊カニ室町氏ノ故號ヲ襲フコト
 フ為ニヤト。而シテ將士功アル。輒ト急ニ之ヲ賞シ。公黨ヲ
 奨用シテ。政偏黨無シ。法令嚴峻ニシテ。姦盜屏息シ。路遺ヲ
 タルヲ拾ハズ。行旅索ヲ委シテ睡ル。公マタ恆ニ人ヲ細微
 ノ末ニ察ス。嘗テ自ラ十指ノ甲ヲ剪リ。侍臣森蘭丸ヲシテ
 其剪餘ヲ收メシム。蘭丸左右ヲ搜索シ。久フシテ去ラズ。公
 問テ曰ク。汝ダ何故ニ退カザルト。答テ曰ク。剪餘既ニ九ヲ
 得タリ。末々其一ヲ見スト。公為ニ起テ。雙袖ヲ振フ。則チ
 爪片ハアリテ墜ル。公大ニ之ヲ賞シテ曰ク。人ノ心ヲ用ウ
 心當リニ此ノ如ク。解給ナルベシト。

又嘗テ侍臣ヲ召ス。至レバ則チ事既ニ辨セリ。侍臣徒爾ト
 シテ退ク。必クアリテ復タ一人ヲ召ス。前ノ如シ。最後ノ一
 人。召ニ應ジテ來ル。伺候スルコト良。久フス。亦々事ヲ命ゼ
 ズ。侍臣マサニ退キ出ントス。顧テ席上遺チタル所ハ。麩芥
 ヲ拾フ。テ以テ出ヅ。公俄カニ呼ビ之ヲ止メテ曰ク。坐レ吾
 レ。汝チニ語ラン。凡ソ進退必ス機トイフモノアリ。機ヲ見
 テ動クモノ。是ヲ軍ノ善謀トナス。汝ダガ今ノ退クガ如キ
 能ク兵機ヲ知ルモノト謂ツベキナリト。

其所子曰。織田右府。天性忌克ニシテ。宿將功臣。往々罪ヲ獲
 然リト雖ドモ。其麾下幾多ノ英傑ヲ出シ。懈惰ニシテ警メ
 ガルノ士ナシ。是蓋シ公ガ縝密ナル。訓誨養成スル所アル

ヲ以テナリ。次下ニ記スル所ノ森蘭丸ガ光秀ノ反形アリ
ヲ見出シタルガ如キ。蘭丸マタ公ガ左右ニ侍シテ。平常細
微ノ事ニ注意ヲ情ラザルモノナリ。豊公亦身ヲ細
ニ起シ。常ニ人ヲ細微ニ察スルヲ熟知スルモノナリ。故ニ
石田佐吉ヲ僧寺ニ得タル。亦公ガ為テ。而ニ倭タリ。今世ノ
人ト勤モスレバ古ヘノ英雄豪傑ヲ以テ。勇敢豪邁ニシテ。
尋常細微ノ事ノ如キハ。敢テ意ヲ留メザルモノト想像ス
ル輩多シ。是レ真ノ英雄豪傑ヲ知ラザルモノニシテ。マタ
英雄豪傑ノ言行ニ於テ。深ク著意セザルモノナリ。公ガ人
ヲ細微ニ察スル此ノ如クニシテ。而シテ森蘭丸ガ光秀ノ
反形アルヲ謂フ。之ヲ等閑ニ聽過シ。翻テ讒毀スルモノト
ス。忽チ本能寺ノ事アリ。覇業半途ニシテ廢セリ。其此ノ如

ク致ス所以ノ由。其ノ原因アル可シト雖ドモ。抑モ亦
クヒ細微ニ察スル。謹慎ノ注意ヲ怠リタルニ由レリ。何
況ヤ夫ノ陳蕃カ。大丈夫天下ヲ掃除スベシ。何ゾ一室ノ事
トセントイヒケルガ如キ。粗豪以テ自ラ居ルモノヤ。其官
官ヲ除キント欲シテ。自ラ禍ヲ取ルノ失敗ヲ招ク所以ノ
者。亦宜ク然カルベキナリ。智勇ヲ兼備シテ。而シテ嚴明謹
密ナル織。右府ノ如クニシテ。猶ホ一タビ細微ニ察スルコ
トヲ忽カセニスレバ。禍ヲ取ルヲ免メガレズ。況ヤ今世ノ
窮措大。漫ニ開進ノ社會ヲ睥睨シ。陳蕃ガ假聲ヲナスモノ
ニ於テヲヤ。其喪身敗家ニ至ラザルモノハ。蓋シ鮮シ。

第五 森蘭丸光秀ノ異圖アルヲ察セシ事

森蘭丸ハ。三左衛門可成ノ子ナリ。織田右府ノ近臣タリ。蘭

九謹厚ニシテ誠懇聰慧ニシテ縝密ナリ右府甚ダ之ヲ愛
 寵ス嘗テ右府ノ長刀ヲ奉シテ側ニ在リ刀鞘黒漆ニ
 紋數十條アリ蘭丸潛カニ其機ヲ窺シテ之ヲ奪フ
 右府之ヲ觀知ス而シテ言ハス最目ヲ殺テ彼ノ左右ニ
 謂テ曰ク能ク鎧上ノ致數ヲ暗射スニエラバ乃チ此
 刀ヲ與フベシト衆爭テ之ヲ暗射ス而シテ中ル能ハサル
 ナリ蘭丸獨リ然シテ言無シ公問テ曰ク汝子美ク之ヲ射
 中ル蘭丸謹ムデ答テ曰ク某嘗テ其數ヲ料記ス今如シ知
 ラザル為ネシテ之ヲ中ルハ是主公ヲ欺キ以テ其賜ヲ貪
 ルナリ是某ガ深ク耻ル所ナリ是ヲ以テ敢テ言ハズト右
 府其誠懇ニシテ欺カザルヲ悦ビ賜フニ其刀ヲ以テス

右府嘗テ蘭丸カサシテ殺セント欲シ命ジテ前堂ノ紙障ヲ

闔サシム蘭丸唯シテ往クバ則チ障全ク闔ツ乃チ徐クニ
 開キ而シテ疾ク之ヲ闔チ然ル後チ反命ス右府曰ク紙障
 ハ果シテ開キタリヤ否ヤ曰ク闔ガタリ然ラバ則チ彼ノ
 夏然トシテ聲アルモノハ何ゾヤト蘭丸跪坐シテ對テ曰
 ク公某ニ命ジテ障ヲ闔サシム若シ其既ニ闔タルヲ視テ
 空シク歸ランニハ則チ主公ノ命ヲ發スルナリ某恐ラク
 ハ諸臣ノ主公ノ命ヲ忽セニスル之ヲ以テ端ヲ發クコト
 アラン故ニ緩開シテ之ヲ緊闔セリト
 蘭丸明智光秀ガ異志アルヲ察知シ竊カニ右府ニ謂テ曰
 ク某光秀ヲ視ルニ食スルニ方テヒ箸ヲ失セリ是蓋シ其
 志小ニ在ラザルナリ必ズマサニ大事ヲ擧ゲントス若シ
 今日ニ於テ之ヲ除カズンバ之ヲ後ニ悔ルモ將タ何ゾ及

ハシヤト、右府以テ讒スルモノトナシテ用ウルコトアタ
ハズ、幾クモ無ク、果シテ本能寺ハ變アリ、右府寢室ニ在リ、
驚キ起テ曰ク、反スル者ハ誰ゾト、蘭丸出デ、其旗幟ヲ視、
還リ報ジテ曰ク、明智光秀ナリト、右府ハ弓ヲ執テ出ツ、蘭
丸及ビ其二弟等、肉薄拒戦シテ、之ニ死ス、
櫻所子曰、蘭丸ガ聰慧ニシテ、縝密ナル、右府忌克ノ質アル
ト、之ヲ愛寵セル所以ノモノハ、他無シ、其謹厚ニシテ、誠懇
ナル、大ニ人ヲ感動スルニ足ルアルヲ以テナリ、而シテ特
リ光秀ノ事ヲ謂フニ至テ、其讒スルモノナルヲ疑フ、亦内
府ノ運命漸ク盡クルモノニアラズヤ、光秀ガ丹波ノ龜山
ニ於テ、一城ヲ山北ニ築キ、踞シテ周山トイフ、蓋シ以テ自
ラ周武ニ擬センナリナリ、然レトモ、反形未ダ昭著ナラ

ズ、天正十年五月、愛宕山ノ祠ニ詣テ、籤ヲ抽クコト再三、獲
シテ寐ヒズ、其明角黍ヲ供スルモノアリ、芭ヲ脱セズシテ
食フ、其西坊ニ會シテ、連歌ヲナス、歌人紹巴至ル、則チ卒然
トシテ問テ曰ク、本能寺ノ湟、深ク幾尺ゾト、紹巴愕然トシ
テ曰ク、君天ノ畏レザルヤ、何ゾ此不順ノ舉ヲ謀ルコトヲ
為ルヤト、此ニ至テ光秀ガ反形始メテ顯然タリトイフ、而
シテ蘭丸ガ敏慧ナル、光秀ガ食スルニ方リ、已箸ヲ失スル
ヲ視テ、其反カントスルノ心アルヲ察ス、炯眼炬ノ如クナ
ルモノト謂フベキナリ、而シテ蘭丸ガ能ク此ヲ知ル所ナ
クモ、平素謹厚縝密ニシテ、刀鞘ノ款紋ヲ料記シ、最テ主
公ヲ歎キ、以テ賜ヲ貪ラズ、障ヲ闢ルガ如キ瓊事ナレトモ、
主公ノ命ヲ廢スルトキハ、諸人が公命ヲ忽セニスルノ端

ヲ發カンコトヲ察ス。其爪甲ヲ收ムル。一序ノ足ヲザルア
ル之ヲ求メテ久シク退カズ。如斯謹信ニシテ。如斯縝密ナ
ルヲ以テ。光秀ガヒ箸ヲ失スルヲ視テ。其異志アルヲ察マ
ルヲ得ケルナリ。然レハ則チ細故瑣事ト雖トモ。常ニ意ヲ
用ヒテ。ニラズンバ。何ヲ以テカ聰慧明敏ナルヲ得ムヤ。
世ニ才子ヲ以テ自負スルノ徒。蘭丸カ縝密ナルガ如クナ
ルヲ得ズ。蘭丸ガ謹厚ナルガ如クナルヲ得ズ。其聰慧亦果
シテ蘭丸ノ如クナルヲ得ベカラズ。眼光亦豆ヨリモ小ナ
ランコト必セリ。然ルモ猶ホ才子ヲ以テ自負シ。識者ヲ以
テ世ニ驕リ古今ヲ叱咤シ。中外ヲ品評セントスルカ。請フ
少ク反省スル所ヲ知ル。

第六 北條氏直蜜柑ヲ徳川氏ニ贈リタル事

...ノ人始メテ香橙ヲ輸入ス。香橙ハ即チ俗ニ九
... 康公喜テ曰ク。是ハ珍菓ナリト。其半ヲ折チ。之ヲ北
... 贈ル。相摸ノ君臣。之ヲ見テ相語リテ曰ク。遠江三河
ノ地ニハ蜜柑ヲキヤ。我マ廿ニ數千顆ヲ贈リ。以テ遠別人
ヲシテ驚駭セシメンノミト。輒チ蜜柑ヲ巨籠ニ實シ。驛夫
數十人ヲ雇ヒ。扛シテコレヲ濱松ニ送致ス。家康公之ヲ視
テ冷笑シ。左右ニ語テ曰ク。吾曩キニ江南ノ香橙數顆ヲ送
リ。出原ノ人視テ以テ尋常一樣ノ蜜柑トスルモノナラ
シ。其直ハ猶ホ年以フシテ事ヲ解セサル亦宜ナリ。然リト
雖トモ。猶將老臣其人ノ在ルアリ。而シテ此兒戲ヲ為ス。北
條氏ノ衰運ナリト。

楊所子曰。初。武康其子。民政ノ食スルヲ視テ。北條氏ノ其
ノクシカラザルヲ知ルハ。能ク其機ヲ察スルモ。一ツリ。而
シテ。民政果シテ武康ノ見ル所ノ如ク。富貴ニ懷戀シテ。世
ノ事情ニ違セズ。刈麥ヲ炊キ。座客ニ饗セシ。殆ト人ヲ
テ。失笑セシム。而シテ。氏直ニ至テハ。更ニコレヨリ甚シ
ク。シテ。アル。推シテ知ルベキナリ。前ニ記スル所ノ江南ノ
程子ヲ見テ。尋常ノ蜜柑トナスカ。如キニ至テハ。人ヲシテ
林段ニ堪サラシム。然ルニ相州ノ老臣宿將。亦一人ノ茲ニ
著意スルモノナキ。是則チ累世ノ武威。關東ハ刈ニ墮キ。主
從同シク。驕縱粗豪ニ至リ。天下々々。北條氏アルコトヲ知
ルモノ。ミ。故ニ德川氏ノ如キハ。視テ以テ小國ノ領主ト
スルニ過ギズ。此ヲ以テ其贈遺スル所。亦此ノ如ク。珍菓ナ
リトイフコトヲ察セサルニ坐スルノミ。是則チ北條氏ノ
社稷。茲ニホロブル所以ナリ。思フニ一國一家。大小同ジカ
ラズト雖。其理亦大ニ殊ナルナシ。主翁ニシテ既ニ人ニ
驕ルトキハ。其妻妾奴婢モ。亦遂ニ人ニ驕ル。家ヲ擧ゲテ人
ニ驕ルニ至レバ。鄉黨之ヲ疾之。親戚之ヲ疎シズ。而シテ其
家ノ繁榮ヲ致スモノ。未ダ嘗テコレアラサルナリ。而シテ
其人ニ向テ驕傲ナル所以ノモノハ。他無シ。恃ム所アルヲ
以テナリ。富貴ヲ恃ムテ人ニ驕ルモノハ。富貴ノ欠ク。保ツ
ベキモノニ非ルコトヲ知ラズ。才ヲ恃ムテ人ニ驕ルモノ
ハ。才智アリト雖。ドモ。亦窒礙スル所アルヲ知ラズ。勇ヲ恃
ムテ人ニ驕ルモノハ。大勇ハ怯ノ如クナルベキコトヲ知
ラズ。女子ノ色ヲ恃ムテ人ニ驕ルモノハ。姿色ノ容易ニ衰

スルニ過ギズ。此ヲ以テ其贈遺スル所。亦此ノ如ク。珍菓ナ
リトイフコトヲ察セサルニ坐スルノミ。是則チ北條氏ノ
社稷。茲ニホロブル所以ナリ。思フニ一國一家。大小同ジカ
ラズト雖。其理亦大ニ殊ナルナシ。主翁ニシテ既ニ人ニ
驕ルトキハ。其妻妾奴婢モ。亦遂ニ人ニ驕ル。家ヲ擧ゲテ人
ニ驕ルニ至レバ。鄉黨之ヲ疾之。親戚之ヲ疎シズ。而シテ其
家ノ繁榮ヲ致スモノ。未ダ嘗テコレアラサルナリ。而シテ
其人ニ向テ驕傲ナル所以ノモノハ。他無シ。恃ム所アルヲ
以テナリ。富貴ヲ恃ムテ人ニ驕ルモノハ。富貴ノ欠ク。保ツ
ベキモノニ非ルコトヲ知ラズ。才ヲ恃ムテ人ニ驕ルモノ
ハ。才智アリト雖。ドモ。亦窒礙スル所アルヲ知ラズ。勇ヲ恃
ムテ人ニ驕ルモノハ。大勇ハ怯ノ如クナルベキコトヲ知
ラズ。女子ノ色ヲ恃ムテ人ニ驕ルモノハ。姿色ノ容易ニ衰

老スルヲ曉トラス。是等ハミナ其意ヲ用ヅルノ績密ナラズシテ。徒ニ現在ノ地位ヲ以テ。而シテ他ニ驕ルモノニシテ。終ニ自ラ禍ヲ取ルコトニ思及セサルモノタリ。豈ニ省察セズシテ可ナランヤ。

第七 石田三成茶ヲ豐公ニ進メタル事

豐臣秀吉公。嘗テ鷹ヲ野ニ放ツ。渴スルコト甚シ。一僧院ニ投シ。茶ヲ乞フ。太ダ急ナリ。行童アリ。一大椀ニ茶ヲ進ム。微温シテ盛ルコト七八分ニ到ル。公一喫シテ快ト稱ス。更ニ一椀ヲ進ム。火ク熱シテ半椀ニ満たズ。公徐ニ喫テ。又一椀ヲ要ス。是ニ於テ代ルニ小椀ヲ以テス。太ダ熱シテ遠カニ喫ス。ヘカラス。公行童ノ才敏ナルヲ愛シ。コレヲ寺僧ニ請ヒ。傳給リ以テ侍臣ト爲シ。漸ク之ヲ愛重ス。後テ竟

五奉行 石田治部少輔三成。是ナリ。

一歳暴カニ雨アリ。澁江ノ水漲溢シ。隈防決壊ス。三成奉行タリ。急ニ京橋畔ノ倉庫ヲ發キ。米苞數千百ヲ出シ。土民ニ命ジテ運搬セシム。以テ其壊ル、所ヲ塞グ。而シテ雨歇ニ水退ク。三成令シニ曰ク。速カニ土豚ヲ造リ。以テ米苞ニ換ユルトキハ。則チ米ハ汝等ガ取ルニ任カスト。土民爭テ之ニ趨リ。隈防日ナラスシテ成就シ。而シテ其堅實ナルハ。未ダ決壊セザルノ前ニ過ギタリ。

櫻所子曰。三成ガ敏慧ニシテ。豐公ニ愛寵セラレ。恰カ王森蘭丸ガ。織田右府ニ愛寵セラレ。ガ如シ。而シテ蘭丸ハ可成ノ子ナレバ。右府ノ近臣タル宜ク然ルベシ。三成一小寺ノ行童タリ。卒然茶數椀ヲ豐公ニ進メ。遂ニ五奉行ニ擢用

セラレ。夫ノ景勝ノ籠城關原ノ戦争事遂ニ成ラズト雖トモ。徳川氏ト衛ヲ中原ニ争フニ至ル。初ノ三成ノ水口四萬石ニ封ゼラル。ヤ。豐公問テ曰ク。汝今人ヲ得タルカ。曰ク一人ヲ得タリ。島左近ト曰フ。公曰ク。孤モ亦其驍名ヲ聞ク。豈ニ薄祿ヲ以テ。小家ニ羈束セラル。モノナランヤト。三成曰ク。臣ガ封ノ半バヲ割テ之ニ與フ。是ヲ以テ能ク留マシムルモノ、ミト。公歎シテ曰ク。主從祿ヲ同フスルハ。古來未ダ聞カサル所ナリ。汝ニシテ能ク之ヲ為ス。偉ナリト謂フベシ。渠僕モ亦必ズ其知遇ニ感激セント。亦以テ三成ガ所為。天下ノ士ヲ重ムズル。敢テ孟嘗平原等ノ諸公子ニ護ラサルヲ見ルベシ。而シテ此等ノ非常有為ノ志氣。茶ヲ進ムルノ日ニ願ヒス。又嘗テ綴附録ニ。美奴温酒ノ事アリ。三成

ガ茶ヲ進ムル事ト。粗相似タリ。請ク之ヲ左ニ取セシ。末ノ季。參政相公。鉉翁。枕ニ於テ將サニ容貌才藝兼全ノ妻ヲ求メントス。旬餘ヲ經テ。未ダ意ニ慝フコト能ハズ。忽チ美奴ナル者ヲ以テ至ルアリ。姿色固ニ美ニシテ。其藝ヲ問ヘバ。則チ曰ク。能ク酒ヲ温ムト。左右皆失笑ス。公漫爾トシテ留メテ之ヲ試ム。事ヲ執ルニ及デ。初メハ甚ダ熱ク。次ハ畧寒ニ。三次ハ微温ナリ。公方ニ飲ム。既ニシテ毎日並ニ初メノ第三次ノ如クス。公喜ムテ遂ニコレヲ納ル。公ガ身ヲ終アルマデ。未ダ嘗テ過不及アラズ。時ニ歸附シテ後チ。公携テ京ニ入ル。公死シテ囊橐ニナ所有トナス。因テ臣ニ富メリ。人稱シテ美娘子ト曰フモノ。是ナリ云々。行童ハ賤豎ノミ。婢妾ハ賤隸ノミ。然レドモ一事ニ意ヲ用

ウル。縝密精到ナレバ。則チ能ク人ヲ勳カス。一ハ四海ノ混
一スルノ英雄ニ愛寵セラレ。一ハ宰相タル人ニ喜ハル。若
シ初メ茶ヲ進ムルニ意ヲ用ヒス。酒ヲ温ムルニ心ヲ致サ
ズンバ。行童嬾妾。固ク其名富榮ヲ取ルニ由シナカラシ。縝
密ノ効用。亦大ナリト謂フベシ。

第八 可兒才藏兵學士ヲ擯斥セル事

可兒才藏ハ。加藤肥後守清正ニ仕フ。驍勇ヲ以テ名ヲ知ラ
ル。或時肥後ニ兵學士來リテ。仕ヲ求ムルコトアリ。清正之
ヲ登庸セント欲人。才藏之ヲ止メテ曰ク。夫ノ兵學士。境日
某ト共ニ食シタルニ。飯ヲ食ヒ殘セリ。兵學也者ハ。敵ハ虎
實、強弱ヲ測リテ。軍隊ヲ指麾スルモノナリ。然ルニ朝夕食
ス。所。食。ハ。中。分。量。ヲ。ス。レ。則。ル。コト。ア。タ。ス。ハ。ス。何
カ。虚。實。ヲ。知。ル。モ。ナ。シ。ヤ。ト。此ニ於テ

清正其トヲ聘スルヲ止メタリ。
櫻所子曰。世人ガ古ヘノ驍將勇士ノ事ヲ傳フル。唯謂ノ某
ハ勇悍ナリ。某ハ強剛ナリト。而シテ其強且ツ勇ナルモノ。

亦嘗ニ強勇ノミニアラズシテ。平生意ヲ用ウル所。常倫ニ
超駕スル者アルニ至テハ。翻テ輕々ニ看過スルモノアリ。
可兒才藏ノ如キ。其驍勇絶倫ノ士タルハ。人ミナ之ヲ知ル。
而シテ此一事ヲ以テ視ルモ。亦徒ニ勇悍ナルノミニ非ル
ヲ知ルニ足レリ。民政ガ一飯ニ再ヒ致美ヲ和スルヲ見テ。
北條氏ノ滅亡遠カラサルヲ知リタルハ。氏康ノ朋ナリ。一
椀ノ食ヲ餐シ盡サバ。ルヲ視テ。其兵學ノ實用ニ供スベカ
ラサルヲ知ル。才藏ノ鑑識ト。マタ其意ヲ用フルノ恆ニ縝

密ナルトハ其聰明氏康ニ減セズト謂フモ可ナリ。

第九 千利休死ヲ賜フニ及ビ遽色ナカリシ事

千利休ハ和泉堺浦ノ人ナリ。初メ茶儀ヲ武野紹鷗ニ學ズ。紹鷗ハ茶道ニ於テ我邦ノ盧陸タリ。紹鷗嘗テ利休ガオヲ試ミント欲シテ命ジテ庭中ヲ掃除セシム。利休諾シテ往ケバ。則チ茶亭ノ前。織蓐ヲ留メズ。帚痕地ニ印シテ。淨潔ヲガ如ク。林樹。瀟洒。蒼翠。洗ッガ如シ。利休倚徨ス。復タ帚ヲ下ス。處ナシ。乃チ林中ニ入り。試ミニ一樹ヲ搖カス。墜葉亂點シ。更ニ一段ノ雅趣ヲ添得タリ。紹鷗ニ報ジテ曰ク。謹ムテ命ヲ了ヒリト。紹鷗之ヲ視テ。其奇オヲ歎ス。乃チ私試ヲ舉ゲテ。之ヲ授ク。利休遂ニ宗匠ノ名ヲ得タリ。此時千茂漸ク収マリ。其後關白行ハル。利休ノ名聲都下ヲ傾ク。天正中。

後陽成天皇時關白ガ聚樂ノ第ニ幸スルヤ豐公茶儀ニ嫺

フモノ數人ヲ選ビ利休ヲ以テ選首トス。豐公一日南禪寺ニ游ブ。路ニ黒谷ヲ過グ。時方ニ清明ニ屬シ。櫻花撩亂タリ。タマタマ一婦人ノ僕ヲ從ヘテ行。花ヲ觀テ。廻ルモノアリ。乍チ前驅喝道ノ聲ヲ聞キ。趨テ花間ニ避ク。豐公輿中ニ在テ瞥見スレバ。美ニシテ艶ナリ。就テ問ハシメテ曰ク。誰氏ノ女ゾト。僕對フルニ茶博士利休ノ女。鴉屋某ニ適キ。新ニ寡ニシテ。孤栖ヲ守ル者ナリト。事ヲ以テス。豐公之ヲ聞テ心動キ。載テ歸ラントシ。論スニ慙慙ノ意ヲ以テス。女辭シ曰ク。賤妾近口良人ヲ喪ヒ。哀泣ノ餘。安ク能ク箕箒ヲ奉スルヲ得ムヤト。豐公之ガ為メニ醜襦ハル。遂ニ近臣ヲ遣ハシ。之ヲ其父利休ニ強迫セシム。利休肯ンゼズシテ曰ク。

吾此女ヲ賣テ奇利ヲ貪ルハ啞リヲ被ルニ忍ビテ敢テ
豐公之ヲ奈何トモスルコトナシ而シテ之ヲ銜ム利休
嘗テ大德寺ノ僧古漢ト友トシ善シ自ラ其像ヲ刻シテ之
ヲ其山門ノ上ニ置ク豐公之ヲ聞キ大ニ怒ラ曰ク山門ハ
天皇公卿ノ出入スル所ナリ利休何ニ為ス者ゾ敢テ其軀
ヲ天子公卿ノ上ニ置ク不遜此ノ如クナル誅セズンバア
ルベカラザルナリト竟ニ中村一氏ヲシテ利休ガ家ニ就
テ死ヲ賜フ者ヲ傳ヘシム時ニ利休其徒宗嚴ト茶ヲ一
室ニ黙ス命ヲ聞テ敢テ驚ケル色無ク花ヲ瓶ニ挿ミ茗數
椀ヲ啜リ儀畢リ徐口ニ起テ遺物ヲ所親ニ分チ從容トシ
テ自裁ス

櫻竹子曰茶禮利休カ初テ紹鷗ニ從テ茶儀ヲ學ス夫ノ處

中ニ樹葉ヲ以テ亂點セシム細瑣ナル事ナリト雖トモ是
即テ紹鷗ガ豎子教ウベントシテ秘訣ヲ傾ケテ盡ク之ヲ
授ケタル所以ナリ而シテ其女ニ依テ富榮ヲ博スルヲ耻
ヅルノ心ヲ推ストキハ平素ノ志操亦必ズ廉潔ナルヲ見
ルニ足レリ何ゾ後チノ茶儀ヲ奉ズルモノ區々タル器玩
ニ其志ヲ喪ヒ然ラザレバ則チ茶器ヲ賣買シテ菩薩ノ椀
折脚ノ鼎多ク贖フ以テ真トシテ人ヲ欺クカ如キモノナ
ランヤ且ツ其死ヲ賜フニ及ビ神色自若タル夫ノ平賀朝
雅ガ後鳥羽上皇ノ宮ニ在テ暮ヲ圍ム時其奴來テ暮宵在
京ノ將士ニ命ジ主公ヲ討ツ事已ニ急ナリト云フ朝雅毫
モ遠色ナク坐ニ復シ子ヲ懷中ニ納メ關東ノ使至ル方ニ
臣ヲ誅ス請フ朝ヲ退カント奏シ乃チ出テ家ニ歸ヘリ

タルガ如キ。太田道灌ノ浴室ニ在テ。突然槍ヲ以テ撥カル
ルニ臨ミ。和歌ヲ口占シタルガ如キ。所謂其元ヲウシナフ
コトヲ忘レザルモノナリ。而シテ朝雅道灌固ヨリ其等ノ
覺悟アルベキコトニシテ。深ク恠訝スルニ足ラズトイヘ
ドモ。利休ノ如キ。假令諸豪貴ト交ハリ。技藝ヲ以テ自ラ高
ブルモノナリトモ。一茶博士ノ之。而シテ其從容死ニ就ク。
朝雅道灌ニ齊シキモノハ。亦其平素心ヲ用ウル所ノ如何
ヲ視ルニ足レリ。而シテ利休ガ此氣象アル者。初メ林中
入テ樹ヲ揺カス時ニ於テ。其穎ヲ囊脱セリ。古人曰ク。一技
一藝アルモノハ。ミナ與モニ語ルベシト。利休モ亦庸常ノ
人ニアラザルナリ。

第十 雲居ハ尚以年ノ徳成ヲ為スヲ知リタル者

僧雲居ハ。塙岡右衛門ノ子ナリ。才識徳邁。徳望並ニ高シ。園
右衛門ノ大坂ノ役ニ死スルヤ。雲居其遺骸ヲ索メテ厚ク
之ヲ葬ル。仏臺侯伊達政宗之ヲ招聘ス。雲居乃チ路ヲ東山
道ニ取リ。マサニ陸奥ニ赴ク。其青野原ヲ過グル
ニ。草賊アリ。數人路ヲ遮ギリテ曰ク。奴輩凍餓ニ苦ム。
請フ貴僧奴輩ガタメニ酒錢ヲ與ヘヨト。雲居自若トシテ
之ニ對テ曰ク。勝經太ダ乏シ。卿等ガ窮ヲ防グノ助ケトナ
ラバ。幸ナリト。囊ヲ倒ニシテ之ヲ與ヘ。顧ミズシテ行ク。賊
輩之ヲ筭シテ七兩ノ金ヲ得タリ。各其一ヲ分ツ。猶ホ雲居
ニ尾シテ來リ。輒テ曰ク。請フ其衣帶ヲ并セテ之ヲ與ヘヨ
ト。雲居是ヲ聞テ。鏝ヲ地ニ抛テ曰ク。卿等ガ悟ラサル亦甚
シ。千里蹀躞スルハ。僧法師ト雖トモ。亦為ス可カラズ。卿等

必ズ之ヲ得ント欲センニハ我ガ生命ヲ并セテ之ヲ取
ル。地上ニ端坐シテ動カズ。賊輩惻焉トシテ感悟シ。相語テ
曰ク。吾儕多年劫罰ヲ事トス。未ダ此ノ如ク神色自若トシ
テ。生死敢テ心ニ關セザルガ如クナル人ヲ見ズ。是凡僧ニ
アラザルナリト。各其金ヲ懷ヨリ出シテ之ヲ返シ。遂ニ髮
ヲ削テ其徒弟タランコトヲ乞フ。雲居乃チ曰ク。卿等苟モ
此ノ如クナルトキハ。貧道モ亦敢テ辭セズト。其ヨリ相從
テ仙臺ニ至リ。松島瑞岩寺ニ住スルヤ。各僧業ヲ脩シ。以テ
世ヲ終テ

雲居ノ瑞岩寺ニ在ル。毎夕御島ノ石窟ニ往キ。禪定ニ入ル。
惡少年アリ雲居ノ悟道如何ヲ試シント欲シ。路傍ノ松枝
ヲ折シテ其末ルヲ待以斬クニシテ雲居至ル。則チ斧ヲ以
テ同ク其頭ヲ攪雲居佇立シテ動カズ。乃チ斷之。教ヲ施

日。其少年雲居ニ問テ曰ク。尊者ノ御島ニ至ル。路ニシテ恠
ヲ見ザルヤト。雲居曰ク。未ダ曾テ之ヲ見ズ。但暗中ニ我頭
顛ヲ攪ムモ。ノアリ。其手肉ノ温暖ナルヲ覺フ。以為ク年少
輩ガ戲ヲ作スノミト。
櫻所子曰。禪僧ガ禪機ヲ談ズルハ。吾ガ未ダ解知セザル所
ナリ。而シテ其皮相スル所ヲ以テ之ヲ言ハシ。則チ世ニ所
謂膽カヲ養フモノト似タルコト多シ。而シテ其膽力ナル
モノ。意外ノ事ニ遭フモ。敢テ其心傾動セザルヲ謂フ。其心
傾動セザルト否トハ。他ニアラス。平素用意縝密ニシテ。精
神靜寂ナルヲ以テナリ。視ヨ雲居和尚ガ。曠原賊ニ遭フ。固
ヨリ身命ヲ并セテ之ヲ惜マザルコトヲ。平常ニ覺悟スレ

ハ千萬人ト雖ドモ何ヲカ懼レズヤ。暗中物アリ其頭ヲ擢ムモ。其心恒ニ靜寂ナルヲ以テ。手肉ノ温暖ナルヲ以テ。必年ノ惡戲ナルヲ知ル。其恒ニ工夫ヲ用ウルノ鎮密ナルガ致ス所ニアラズシテ何ゾヤ。

第十一 江村專齋平生些字ヲ持シタル事

江村專齋ハ赤松ノ庶族ナリ。其父既在專齋ヲ新在家ニ生ム。專齋年十五ニシテ。鑿術ヲ法印德岩ニ學ブ。又自ラ瀛洛ノ學ヲ攻ム。儒ヲ以テ肥後侯加藤清正ニ事フ。清正卒シテ後ヲ致仕ス。富永中美作侯森忠政。其名ヲ聞テ之ヲ聘シ。遇ズルニ賓師ノ禮ヲ以テス。遂ニマタ之ニ遊事シテ以テ世ヲ終フ。專齋少壯ヨリ務メテ攝養ヲ為ス。齡九十ヲ過ギテ

修養ノ術ヲ問フ。專齋奏シテ曰ク。臣固ヨリ他術無シ。平生唯一些字ヲ持スルノミ。上皇其故ヲ問フ。曰ク。食ヲ喫スル些。思慮モ些。養生モ亦些ナルノミト。上皇大ニ之ヲ感賞シタマフ。寛文四年七月。勅シテ院叅ヲ許シ。鳩杖一黄金一ヲ賜フ。後ヲ又扇紙等ノ賜アリ。草莽ノ士至尊ノ寵顧アル斯クノ如キ。實ニ儒林ノ榮ト謂フベキナリ。

〔附記〕室町氏ノ時。一庖人アリ。割烹ニ善キヲ以テ。寵用セラル。其齡百有餘歳ニシテ。狀貌ハ則チ少壯ノ人ノ如シ。或人_{リヤリ}之ヲ問フ。曰ク。吾子唯百歳ノ壽ヲ保ツノミナラズ。耳聰ニシテ目明カナリ。體健ニシテ肌膚澤アリ。意フニ不老長生ノ術アリテ然ルカト。庖人笑テ曰ク。是難事ニアラスト。因テ一大些字ヲ書シ。之ニ與テ曰ク。余庖人ヲ以テ。刀俎ニ從

事スルコト。茲ニ數十年。故ニ諸鳥ヲ宰割スルモノ。年ニ其
幾百千匹ナルヲ知ラス。嘗テ試ニ其食囊ヲ取テ之ヲ檢
スルニ。鳧鴨鴻雁ノ屬ハ。ミナ食囊充實飽滿セストイフコ
ト。無シ。獨リ鶴ニ至テハ。則チ然ラズ。其食囊容ル。所率ニ
七八分ニ過ギズ。絶テ其充實飽滿セルモノヲ見ズ。吾是ニ
於テ。初メテ其能ク千年ノ壽ヲ保ツヲ知ルトリ。吾マタ是
ニ於テ。初メテ人壽ノ衛生ニ原クテ知ルナリ。是ヨリシテ
後チ。凡ソ口腹ノ慾。一ニ此字ヲ持シテ其限量ヲ失ハズ。以
テ今日ノ壽ヲ致セリ。他ノ方術アルニ非ルナリト。
櫻所子曰。專齋ノ事。老人ノ説ト相似タリ。而シテ鳧鴨鴻雁
ト。鶴ノ食囊トヲ檢シテ。養生ノ道ヲ悟リタル事ノ如キ。真

ベキナリ夫ハ。狂豪浮躁ナル固ヨリ世ニ處スルニ不利ナ
ルノミナラズ。其衛生ニ放ケル亦宜キニ過ナス。苟モ飲食
衣服宮室妻妾ノ奉。皆能ク之ヲ節シ。所謂此字ヲ持スルニ
非ンバ。必ズヤ救藥スベカラザルノ病症ヲ發シ。扁倉ト雖
ドモ之ヲ奈何トモスベカラザルニ至ラン。飲食ハ甘美ナ
ルヲ以テ。食テ少ク節ヲ過ギ。妻妾ハ艶慧ナルヲ以テ。愛シ
テ其度ヲ過ゴス。是則チ富貴者ノ壽ヲ得ルコト少キ所以
ニアラズヤ。特ニ衛生ノ事ノミナラス。閑話ヲナシ閑書ヲ
讀ム。分寸ノ光陰ヲ徒消スルモ。未ダ學業ノ進歩ヲ妨グル
ニ足ラズトシテ。螢雪ノ勉苦ヲ懈ルモノ多キハ。世上學ニ
遠キ人ニ乏シキ所以ニアフスヤ。錙銖ヲ費スモ。未ダ以テ
貧ヲナスニ至ラズ。錢厘ヲ愛ムモ。未ダ以テ富ヲ致スニ足

ラザルナリトシテ、財ヲ愛ムニ意ナキモノ多シ。是世間富ム者ノ至テ寡ク、貧キ者ノ極メテ多キ所以ニアラズヤ。小善為ニ足ラザルナリ。小惡懼ル、ニ足ラザルナリトシテ、其小善モ之ヲ積ハトキハ、以テ名ヲ成スニ足リ、其小惡モ之ヲ累スレバ、以テ身ヲ亡ボスニ至ルコトヲ知ラズ、是社會道德アル者ハ太ダ稀ニシテ、姦猾ニシテ刻薄ナル者多ク、甚シキハ法網ニ觸ル、者相踵テ出ル所以ニアラスヤ。既ニ飲食ノ其身ヲ養フベキ者スラ、少シ其度ヲ過グルトキハ、天壽ヲ夭折スルノ媒トナル。况ヤ奢侈怠惰等ノ如キ、必ズ人ノ家ヲ敗ラリ、人ノ身ヲ喪ボスモノニ於テヤ、此細ノ事ト雖ドモ、之ヲ忌避スルコト鳩毒ノ如クスベシ。

過スルモ世財ヲ費スコトモ亦世ナルニ非スンバ得ベカラズ、之ヲ再言スレバ、人生萬般細世ノ事トイハドモ、恒ニ縝密ノ注意ヲ懈ラザルニ在リ。豈ニ啻ニ攝生ノ事ノミナランヤ。

第十二 徳川秀忠公ノ縝密謹厚ナリシ事

徳川秀忠公嘗テ病ニ臥ス數旬未ダ敢テ一朝モ梳頭ヲ廢セス。人ニ語テ曰ク、然カク病ムト雖ドモ、天下ハ政ハ敬ムテ之ヲ聽カズンバアルベカラズ、豈ニ蓬頭垢面ニシテ之ニ接スベキモノナランヤト。又嘗テ左右ニ語テ曰ク、人恒ネニ謂フアリ曰ク、浮世ハ夢ハ如シ、寸外ハミナ暗黒ナリ、何ゾ時ニ及ムデ娛樂セザランヤト。斯言大ニ謬マルモノト云フベシ。浮世既ニ短カケレハ、マスマス敬愛セザルベ

カラズ敬愛スベキハ時亦長カラザルナリ豈勤勉セザル
ベケンヤト。

公常ニ花枝ヲ瓶ニ挿ムテ之ヲ愛玩ス茶儀アル毎ニ公自
ラ之ヲ床ニ安ク冬日牡丹ヲ献ズルモノアリ公一たび覽
テ善シト稱ス左右公ニ白フシテ云ク盍ゾ之ヲ瓶ニ挿マ
ザルヤト公曰ク此花美ハ則チ美ナリト雖ドモ節序ハ正
ニアラズ賞玩スルヲ欲セザル所ナリト。

公タマタマ太公家康ヲ駿府ニ省ス太公之ヲ貳室ニ館
ス淹留月ヲ踰ユ太公竊カニ女監阿茶ヲ召シ之ニ諭シテ
曰ク將軍青年羈旅ノ寂寞想フ可キナリ女波奈ヲシテ其
起居ヲ候ヒシムバ或ハ以テ無聊ヲ慰ムルコトアラシカ

ト女監阿茶ハ若シテ人ヲシテ私カニ之ヲ公ニ報セシ

メ波奈ヲ呼テ懇懇ニ意ヲ授ケ以テ之ヲ遣ル波奈年十八
明眸皓齒光艷人ヲ照ス是夕美服靚妝侍女一人ヲ携ヘ潛
カニ後園ヨリ徐歩シテ公ノ館ニ到ル公則チ盛服ヲ着ケ
儼然トシテ室ニアリ戶外微カニ剥啄ノ聲アルヲ聞キ乃
チ起テ戸ヲ啓キ波奈ヲ延テ座ニ上ラシム波奈乃チ太公
賜フ所ノ點心一盆ヲ齎ス公拜跪シテ之ヲ受ケ即チ波奈
ヲ促ガシテ去ラシメ親カラ燭ヲ執リ之ヲ戶外ニ送ル波
奈茫然トシテ失フ所アルガ如シ歸テ之ヲ女監ニ報ズ太
公之ヲ聞キ歎ジテ曰ク將軍ノ謹厚ナルコト此ハ如シ我
雲梯ニ駕スト雖ドモ及ブベカラズト
太公或時本多正信ニ諭シテ曰ク將軍ノ謹密ハ洵トニ美
トスビシ然リト雖ドモ事亦宜ク謹密ニスベカラザルモ

ノアリ。思ハズンバアルベカラズト。正信唯シテ退久。正信
他日公ニ謁シ。因テ帝ヲ前メテ曰ク。殿下ノ謹密甚シ。請フ
少ク其言ヲ放誕ニセヨ。是太公ノ訓ナリト。公咄テ曰ク。太
公ハ放誕ヲ説ク。人之ヲ買フモハアリ。他無シ其實價アル
ヲ以テナリ。我ハ一物ナキ。縱使其放誕ヲ説クモ。人誰カ信
ジテ之ヲ買ハンヤト。

櫻所子曰。台徳公ノ謹密淳厚ナル。當時武人粗野ノ習氣ナ
ク。儼然トシテ大宰相ノ風アリ。此人ニシテ東照公ノ創業
ヲ輔ケ。遂ニ守成ノ規模ヲ定ム。三百年ノ昇平ヲ致ス。且ノ
亦固ヨリ偶然ニアラザルヲ知ル。

第十三 紀州侯頼宣其生母ニ牽牛花ヲ贈リタル事

此侯頼宣嘗テ牽牛花一盆ヲ其生母養珠院ニ贈テ曰ク。朝

開ノ花午ヲ過ギテ猶小榮フ。以テ一餐ニ供スル方リト。養
珠院之ニ答ヘテ曰ク。朝花ノ贈奇觀喜ブベシ。抑主人ノ壽
毛亦此花ノゴトシ。其養フコト宜キニ適フトキハ短キモ
ノモ亦之ヲシテ長カラシムベキナリ。即チ家ヲ齊ヘ國ヲ
治ムルモ亦此ノ如シ。福祚何ゾ長久ナラザルヲ患ヘンヤ。
勉旃々々。答謝ハ次。聊カ之ニ及ブト。

櫻所子曰。徳川武ノ起ル。賢良輩出ス。持リ閣老タリ。所司代
タルモノ。其人ニ乏シカラザルノミナラズ。脂粉ノ人ニシ
テ。亦往々丈夫ニ勝サルモノアリ。台徳公ノ乳媪ガ本多正
信ヲシテ。赧然タラシメタルガ如キ。是ナリ。養珠院ハ則チ
河萬方ニシテ。粧資ヲ捐テ。搗團右衛門ヲ養フ。第一卷華
宜ナル哉。其心ヲ用ウル。續密周到ニシテ。一盆ノ牽牛花ト

雖トモ、敢テ之ヲ等閑ニ看過セズ。其答謝ノ語次、生ヲ衛リ
國ヲ治ムルノ事ニ及ブ。若シ意ヲ用ウル、縝重ナラズンバ、
聖經賢傳ヲ讀ムト雖ドモ、亦雲煙ノ眼ヲ過ルト一般ナラ
シノミ。

第十四 板倉勝重其室ヲ戒メタル事

板倉勝重、初メ四郎右衛門ト稱ス。後チ伊賀守ニ任ズ。徳川
氏守成ノ良臣ナリ。勝重幼年ニシテ釋門ニ入り、讀書ヲ好
ミ。螢雪ノ業ヲ怠ラズ。父好重弟定重ハトモニ戰死シ。兄ノ
忠重ハ疾ニ由テ卒ス。而シテ子ナシ。家康公乃チ勝重ヲシ
テ髮ヲ蓄ヒ吏トナラシム。終ニ大ニ任用セラル。天正年間、
家康公駿府ニ城キ、濱松ヨリ徙ルヤ、勝重ヲ以テ奉行トス。
勝重再之固辭スレドモ許リテ、乃チ公ニ請テ曰ク、在願

クハ家ニ歸テ婦ト謀ルニ、母老得志ニシテ、
テ之ヲ許ス。勝重辭シテ退ク。其室迎ヘテ曰ク、人アリ、
ノ慶事アルコトヲ告グ。果シテ信ナリヤ否ヤト。勝重祓服
ヲ脱シ、坐レテ之ニ謂テ曰ク、吾今自奉行ノ命ヲ受ケタリ
ト雖トモ、卿ト之ヲ謀ラント欲スルガ故ニ、辭シテ歸リ。
卿ハ斯事ヲ以テ如何トスルゾ。室驚キ對ヘテ曰ク、是ハ公
ケノ事ナリ。妾ガ敢テ知ル所ニハアラスト。勝重曰ク、否チ
然ラズ。古ヘヨリ官吏タル者、内謁ヲ以テ事ヲ敗ル。其例之
シカラズ。自今以後、卿若シ我が為ス所ニ於テ、一モ喙ヲ容
ル、一コトナク、マタ苞苴私謁、一モ受クル所ナキヲ誓ハシ。
吾ハ則チ命ヲ拜セン。室曰ク、敢テ唯命コレ從ハザランヤ
ト。勝重言畢リテ、復タ祓服ヲ被。袴ヲ穿テ出ヅ。室之ヲ送り

誇後ノ松、疾セルヲ見、呼テ之ヲ正フセシト欲ス。勝重怒テ曰ク、卿忽チ誓ヒニ背クニハ非ズヤト。室恐懼シテ罪ヲ謝ス。是ニ於テ往キ命ヲ拜シテ職ニ就ク。訟獄平正ニシテ庶績大ニ舉ガル。慶長中、勝重加藤正次ト、京都所司代トナリ。裁判及ビ寺社ノ事ヲ掌トル。尋デ正次罷メラレ、勝重ニ專任セラル。當時大亂漸ク定マリ、民情猶ホ洶然タリ、事務亦忽劇ヲ極ム。勝重ガ明敏詳雅ナル。庶民悦服セザルハナシ。元和中、老ヲ以テ官ヲ辭ス。三代將軍家光公、親カラ其多年ノ勞ヲ慰メ、且ツ人ヲ舉ゲテ巳レニ代ラシメシコトヲ命ズ。勝重曰ク、臣ガ長子重宗、ユゾ能ク其任ニ堪ベシト。乃チ重宗ニ命ジテ京都所司代タラシムト云フ。

櫻河子曰、徳川氏ノ起ルニ百年來、西海擾亂ノ後ヲ養ケ、切

モズレハ、衡ヲ中原ニ争ハシトスルモノ、肩ヲ比ベテ立ス。斯時ニ方リテハ、實ニ創業ノ難ハ既ニ過ギタリト雖ドモ、守成ノ難キ亦決シテ創業ノ容易ナラザルガ如クニハアラズト謂フベカラズ。然ルニ局ニ當ル者多ク其人ヲ得、老中ニハ、松平信綱、土井利勝、青山忠俊、酒井忠世ノ如キアリ。京都所司代ニハ、板倉勝重父子ノ如キアリ。能ク民心ヲ収攬シ、天下ノ姦雄ヲシテ一隅ニ屣息セシム。是則チ三百年間ノ昇平ヲ致ス所以ナリ。勝重初メ駿河奉行ノ命ヲ拜スルニ方リ、歸テ婦ト謀リ、然ル後チニ命ヲ拜セント謂フガ如キ、一應之ヲ聽ケバ、殆ンド失笑スルニ堪ヘタルモノ、如シ。再三此言ヲ玩味スレバ、理宜ク然ルベキモノナリ。何トナレバ、男女室ニ居ルハ人ノ大倫ナリ、而シテ家政百般

ノ事。之ヲ婦ト謀ル。公ニ奉ズルノ職務ヲ以テ。家政ヲ整理
スルヨリモ。重且ツ大ナルモノトスルトキハ。實ニ其婦ト
謀カリ。他日内謁。夕メニ事ヲ敗フルガ如キヲ豫メ防遏
セガルベカラス。其袴後ヲゴトサラニ拗屈シテ。而シテ其
室ヲ警戒セシガ如キ。意ヲ用ウル鎮密ナリト謂フベシ。左
レバ勝重初メ奉行トナルニハ。如斯鄭重ノ注意ヲ要シ。而
シテ其已レニ代リテ京都所司代タルモノヲ推薦スルニ
ハ。實子重宗ヲ以テス。敢テ其子ニ私スルノ嫌ヲ被ムルヲ
ヲ畏懼スルノ念ナシ。公ニ奉ズルニ至誠ナル。亦以テ見ル
ベシ。重宗ノ職ニ在ル。果シテ勝重ノ鑑識ニタガハズ。慎密
公廉ニシテ。大ニ其職ニ稱フ。世因テ稱歎シテ曰ク。勝重能
ク其子ヲ識リ。而シテ重宗ハ其父ヲ傳カシメサルモノナ
リト。然ルニ徳川氏ノ季世ニ及ビテハ。其職ヲ奉ズル者徒

ラニ公正廉潔ヲ以テ外面ヲ飾リ。苞苴私謁。黃綠請託。百方
官ヲ求ルニ汲々タリキ。何ゾ其婦ト謀ルニ暇アランヤ。而
シテ朋友親戚ノ中ニ於テ。器材アル者アリトヒ。自カラ推
薦スルヲ憚カリ。他ニ託シテ推薦セシム。蓋シ其親附ニ私
スルノ嫌ヲ避クルニ在リ。公ニ奉ズルノ至誠ナキモノト
謂フベシ。然レバ則チ勝重ノ如キハ。宜ク鎮密ナルベキ所
ニ鎮密ナルモノニシテ。徳川氏季世ノ風ハ。之ニ反スルモ
ノト謂フベキナリ。宜ナルカナ治亂其迹ヲ同フセザリシ
コト。

第十五 板倉重宗茶禮ヲ設ケテ訟ヲ聽キタル事

重宗ハ板倉勝重ノ長子ナリ。初メノ名重統。後チ今ノ名ニ

改ム。十三郎ト稱ス。慶長中。從五位下ニ叙シ。周防守ニ任ズ。其京都所司代ノ命ヲ拜シ。職ニ在ルヤ。治績父一減ゼズ。重宗嘗テ人ニ問テ曰ク。吾ガ獄ヲ斷スル。世人何ト謂フヤト。曰ク。公カ威嚴ナル。人其言ヲ盡シ難キニ困シムト。重宗之ヲ聞テ曰ク。汝ガ言理アリ。吾ガ訟ヲ聽ク。其非ヲ飾サリ。清ヲ匿スト思フトモハ。面貌ノ憎ムベキヲ覺フ。故ヲ以テ。屢之ヲ窮詰スル。聲高ク色厲シ。其弊ヤ遂ニ言ニ訥ナルモ。ノヲシテ畏怖セシメ。敢テ情ヲ盡サズルコトアラシ。是吾ガ過チナリト。是ヨリ。法廷ニ出ル毎ニ。茶礎ヲ亮隔ハ中ニ設ケ。西ニ向テ拜シ。而シテ。後テ座ニ着キ。亮隔中ニ在テ。茶ヲ碾キ。訟者ハ面ヲ觀ズ。人アリ恠ムテ其故ヲ問フ。重宗對テ曰ク。獄ヲ斷ズル者ハ。宜ク一際ハ私心ヲ挾ムベカラズ。

吾毎ニ西ニ向テ拜スル所以ハ。コトヲ。瓊宕山神ニ誓ハスリ。瓊宕神ノ威靈顯赫ナル。苟モ私心アラバ。神マサニ我ヲ罰殛セシ。凡ソ人ノ心ハ。境ニ觸レテ。移動シ易ク。心ハ湛然トシテ澄静ナルハ。極ムテ難シ。故ニ親カラ茶ヲ碾シ。以テ心ヲシテ澄静ナラシム。心静カナルトモ。則チ手モ亦徐ナリ。手徐カナレバ。則チ茶密ナリ。茶ハ粗密ヲ視バ。以テ心ハ静躁如何ヲ驗知スルニ足ル。苟モ心ニシテ澄静ナレバ。則チ明生ズ。明ナレバ。則チ裁斷スル所平允ナリ。是非曲直人輩ニ得テ覆蔽スベキモノナランヤ。且ツ人ノ類。貌ハ相同シカ。ニザルコト。差萬別ナリ。美アリ醜アリ。愛スベキア。ソ。惡ムベキアリ。面相ノ愛スベキヲ視レバ。則チ其言辭聽ク可ク。面ノ惡ム可キヲ視レバ。則チ其語氣亦詐ルニ似

吾毎ニ西ニ向テ拜スル所以ハ。コトヲ。瓊宕山神ニ誓ハスリ。

タリ之ヲ以テ宰官タル者數モスレバ面相ノ夕々ニ騎セ
 ラレ。斷讞其允當ヲ闕クニ至ル。豈懼レテ且ツ慎マサルバ
 ケンヤ。吾ガ甚隔ヲ閑分訟者ノ面ヲ觀ガル所以ナリト。又
 嘗テ幕府ノ吏ニシテ。一サニ任ニ長崎ニ赴ムカントスル
 アリ。京都ヲ過ギテ重宗ニ謁ス。晤言時ヲ移レテマサニ辭
 シテ歸ラントス。重宗一古錢ヲ袂ヨリ出シテ之ヲ與ヘテ
 曰ク。此ハ是レ前日長崎奉行タリシ竹中某ノ贈ル所ナリ。
 竹中ハ遂ニ賊ヲ以テ敗ブル者ナリ。故ニ吾恆ネニコレ
 ヲ座右ニ置キ。以テ自ラ儆戒ス。今イサカ子ガ行ニ驢ス
 ハニ此古錢ヲ以テセント。蓋シ長崎ノ地タル。蕃漢互市ノ
 場ニシテ。珍貨奇寶ノ輻湊スル所ナレバ。往々貨財ノ為メ
 ニ失敗ヲ取ル。故ヲ以テ重宗錢ヲ惜テ之ヲ佩スルナリ。重

宗京御所司代タタルト殆。嘉永二年。瑛公明由多。云。茲。撤。

允當ナリ。盜賊起ラズ。姦猾迹ヲ削ル。京都近來ニ至ルマハ
 其姓名ヲ門傍ニ署シ。以テ避盜ノ靈符ヲナスノ俗ヲ存セ
 ル。其京民ノ追慕スル所亦以テ觀ルベシ。

物戔卿ガ將軍吉宗公ニ獻ゼシ書中ニ謂ヘルコトアリ。曰
 ク。昔シ板倉周防守下向シタル一キ。松平伊豆守申タルハ。
 上ニモ段々御政務ニ脚心盡サレ候。上方ノコトヲモ妻細
 ニ聞シ召タク思召サレ候間。向後ハ仲間へ遣サレ候書狀
 ハ。今少シ念ヲ入レ。上方ノコトヲモ上聞ニ入ルヤウニ教
 サルベシト云フトキ。周防守答ニ。百二ト里隔リタル先ノ
 コーユエ。上ニ何ホド御發明ニ御座遊ハサレ候トモ。及ビ
 越ニハ御存知之レ無キコトナリ。其為ニ周防守ヲ置ル。

コトナレバ。申上ルニ及バズ候ト答ヘタリ。サテハ周防守
ハ身ヲ踏込テ勤ムルモノナリトテ。御感悦淺カラサリケ
ルトナン。書狀ハイツモ。上ノ御機嫌ヲ伺ヒ。サテ堂上方替
ルコトナシトバカリニテ。恐惶謹言ト留メテ。何事モ申越
サズト兼ハルセ。テ今ハ世ニ大役ノヒトハ。周防守ガ半
分ノ器量モアレバ。世間ノ人ニ風儀移リテヨカルベシト
思ハル。又曰ク。周防守ハイカホドニ有ケン。ヨク思ハマリ
テ勤メタルハ。治ノ筋ニ心付タルヤウニ兼リタルコトア
ル。京都ノ人只向々ノ職分ヲサヘスレバ。京都ハ治マルト
常ニ云テ。公家ハ歌ヲヨミ學文ヲスレバ。少々ノ惡キコト
ヲモ免ルシ。賢者ハ療治ヲ能シ。職人ハ其家職ヲ能スレバ皆

以テノ惡キ事ハ免レタリト承ル。或時寺御分給田金ハ周防守

行タルニ。古キ社ノ官居モ零落ジクルチ。神主古キ裁束ヲ
著ケ。拜殿ニ書物ヲ見テ居タリ。周防守何ノ書ツト問ハバ。
神書ナリト答フ。其後一年バカリモ過ギテ。周防守マ々行
テ見タレバ。神主初ノ如シ。周防守大ニ感ジテ。此社ノ修覆
ハ。公儀ヘハ申シ難シ。自分ニ修覆ヲシテマイラスベシト
テ。修覆セラレタリ。是モ神主ノ家業ヲ太切ニ為スコトヲ
賞翫シテノコトニテ。京都ノ治ト云コトニ其身ノ全体ハ
マリ居タル故ナリ。今ハ右ノ社ヲ板倉ノ家ニテ修覆マル
ト云コト。是ハ世ノ習ハシノ例ト云フコトニ覺テ。後ノ神
主モ子孫モ。周防守ガ本意ヲ知ラズ。此社ヲ信仰シタルト
思フハ淺マシキコトナリ。總ジテ世間ニモ。周防守ハ公事
ヲ能ク捌タリトバカリ覺テ申傳ルハ。月モナク耳モナキ

世ナルカナ。

櫻所子曰、板倉勝重、同重宗、父子共ニ吏治ニ長ズルハ、固ヨリ喋々ヲ談タズ、當時京都人民ノ愛敬思慕スル所、後人ノ稱讚咨嗟シテ措カザル所ナリ、然ルヲ今マタ其吏治ハ板倉父子ヲ以テ最トスルノ意ヲ陳ベ、却テ贅言ニ屬スルノ毀リヲ來タサンヨリハ、寧ロ其心ヲ治ニ用ウルニ就テハ、如何ニシテ斯ク救民ニ長ゼシモノナルヤヲ考索スベシ、重宗固ヨリ天質聰慧ニシテ、心ヲ治ニ用ウルモノタルモ、若シ之ヲシテ粗傲ノ氣アラシメバ其聰慧ハ翻テ民ヲ保安スルガ為メニ用ヲナサズ、或ハ舞文巧詆ト化シ、或ハ陰險奇譎ト變ジ、縱使始メ循良ノ名ヲ得ルモ、年ヲ経ルニ至リ、其間終ニ奇酷ノ老吏タルノ毀リヲ招カシ、何事カレバ

德川氏ノ中世以降、閣老タリ奉行タリ、代官タル輩ヲ觀ルニ、初メ其命ヲ拜シテ職ニ當ルヤ、銳意以テ前弊ヲ矯正シ、大ニ民望ヲ得、而シテ三五年若クハ七八年、年月ヲ経ルニ及ビ、漸ク怨嗟ノ聲民間ニ聞エ、或ハ專橫驕恣、大樹將軍ヲモ蔑視スルニ至ルモノアリ、間部詮房、田沼意次ノ如キ是ナリ、左レバ幕府ノ吏一シテ、而シテ聞譽ヲ遠邇ニ馳スル者、初メ板倉父子ノ如クニシテ、後ニ間部田沼ノ流亞タラザルモノ幾ンド希ナリ、重宗京都所司代タルコト四十年、終始一ノ如ク、未ダ嘗テ吏治ニ老タル者ハ、恰モ社鼠ノ蝮蟻ニ化スルガ如クナルノ跡アラザル所以ノ者ハ、何ニ因テ然ルカ、曰ク他無シ其意ヲ用ウルコト頗ル縝密ニシテ、毫毛粗豪驕縱ノ氣アラザルニ由レリ、此縝密ノ心ヲ以テ

訟ヲ聽ク。故ニ其訟者ノ面相ヲ視ル。自カラ愛憎好惡ノ生
ズルヲ知ル。其非ヲ飾ガリ情ヲ匿スト意フトキハ。聲色共
ニ厲シフシテ。訟フル者ヲシテ情ヲ盡スアタハサラシム
ルヲ察ス。是ニ於テ茶亮隔ヲ開テ。茶礎ヲ設ケ。訟者ノ面ヲ
觀ズ。且ツ手ヅカラ茶ヲ碾キ。茶ノ疎密ヲ以テ。精神ノ靜躁
ヲ驗知ス。是訟獄平允ヲ致スノ原因ナリ。此疎密ノ心ヲ以
テ民ニ蒞ム。故ニ其古祠ヲ過ギ。巫祝ガ神典ヲ讀ムヲ視テ。
其業務ニ懈ラサルヲ美トス。其再ビ此ニ過ギリ。復タ前ノ
如クナルヲ視テハ。大ニ之ヲ賞ス。此ノ如キ瑣事ナリト雖
ドモ。歳ヲ終テ取テ遺失セズ。此疎密ノ心ヲ以テ人ニ交ハ
ル。故ニ長崎ニ赴任スル者ニ諷スルニ。一占筮ヲ訣ヨリ出
テ。臧ノタメニ敗ルルハ。モハナクハ以テテ。其自任ス

ルノ厚キ職務ノタメニ意ヲ用ウル。周到疎密ナルヲ以テ。
書ヲ當軸ニ贈ル。敢テ京洛ノ政務ニ及バズ。是疎慢ニ似テ
翻テ疎密ナルガ故ナリ。由是觀之。板倉父子ノ吏治ニ長ズ
ル所以ハ。意ヲ用ウルノ疎密ニシテ。マサニ命ヲ拜セント
スルニアタリテ。先ツ其婦ト謀リ。コトサラニ袴ヲ糊シテ。
婦言ヲ容レザルヲ示シ。或ハ茶礎ヲ設ケテ訟ヲ聽クガ如
キ。苟モ聰慧ヲ以テ自ラ驕リ。細瑣ノ事ヲ輕ンジテ。敢テ顧
思セザルガ如キ事ナキニ由レリ。後世自ラ吏能ニ誇ルモ
ノ。細故ナリトシテ此ヲ故在シ。瑣事ナリトシテ彼ヲ看過
ス。殊ニ知らズ。細故瑣事ト雖ドモ。之ヲ積累セバ則チ重大
ノ事故トナリ。以テ民心ノ嚮背治績ノ舉否ニ關スルモノ
ナルコトヲ。後ノ民牧タル者。宜ク鑑スベキナリ。然リ而シ

テ今ノ所謂縹密ハ、苛察煩細ノ謂ニアラザルハ、固ヨリ言
ヲ待タズ。看者幸ニ金鑰ヲ混ズルコト勿レ。

第十六 太田忠兵衛劍法ノ虚實ヲ論シタル事

太田忠兵衛ハ、板倉氏ノ臣ナリ。伊賀守勝重ニ仕フ。板倉勝
重ノ京都所司代タル。タマタマ大内ニ散樂ヲ張リ、衆庶ヲ
シテ縱觀セシムルコトアリ。遠近來リ觀ル者、堵ノ如シ。時
ニ深工吉岡兼房トイフ者亦往キ觀ル。警吏其無狀ナルヲ
見叱シテ之ヲ去ラシム。兼房大ニ怒リ、家ニ歸リ、私カニ刀
ヲ衣中ニ藏クシ、而シテ再ビ往テ警吏ヲ斬ル。事不意ニ發
シ、衆ミナ驚愕騷擾シテ、互ニ相蹂躪ス。勝重ハ日華門ニ在
リ之ヲ觀テ怒ルコト甚シ。直チニ眉大刀ヲ拔テ起ツ。忠兵
衛之ヲ止メ曰ク、是主公ヲ煩ハスニ足ラズ。某請フ代テ往

カント、衆ヲ掛シテ進ム。兼房ニ紫宸殿ノ階下ニ過テ、相争
テ闘ハントス。兼房タマタマ顛躓シテ倒ル。忠兵衛呼テ曰
ク、人ハ顛躓スルニ乘ジテ為スハ、武士ノ耻トスル所ナリ。
疾フ起テ、輸贏ヲ決セヨト。兼房身ヲ翻シテ起ツ。忠兵衛刀
ヲ揮テ、一撃シテ之ヲ殪ス。群衆唱米歡呼シ、勝重大ニ悦ブ。
官邸ニ歸リコレニ酒ヲ賜ヒ、徐ロニ問テ曰ク、寡人嘗テ聞
ク、兼房ハ賤工ナリト雖ドモ、亦擊劍ニ長ズルモノナリト。
而シテ其倒ル、モノハ天ナリ。汝ヲ盍ゾコレニ乘ジテ、擊
タズ、乃チ其起ツヲ待テタルヤト。忠兵衛謹ムテ對ヘテ曰
ク、是ハ劍法ニ虚實ノ辨アルナリ。今主公ハタメニ之ヲ論
ゼン。夫ノ倒ル、ヤ、倒ルモノ、虚ニシテ、身ヲ捍グ所以ノモ
ノ實ナリ。若シ我レ其實ニ臨マバ、反テ彼レガタメニ斬ラ

ルコトアラン其起ツヤ起ツニ實ニシテ敵ヲ防グ所以ハ者虚ナリ我其虚ニ乘ズレバ彼レニ先ムセザルモノ蓋シ鮮シ是以技ナリト雖ドモ以テ兵法ニ通ズベキナリト勝重大ニ感ジ忠兵衛ニ祿若干ヲ増シ與ヘタリ櫻所子曰劍ハ一人ニ敵スルノミ然リト雖ドモ其虚ヲ衝キ實ヲ避クル間髪ヲ容レザルモノアリ萬人ノ敵ニ當タルモノ固ヨリ此虚實ノ辨ヲ詳カニセズンバアレベカラズ信長ノ義元ヲ桶狭ニ襲撃セル謙信ノ三郎ガ坂ヲ下ルヲ待テ之ヲ伐テタルガ如キ亦ミナ實ヲ避ケテ虚ヲ衝クノ策ニ外ナラス忠兵衛亦兵ヲ知ル者ト謂フベキナリ

第十七 德川吉宗公ノ勤儉績密ナリシ事

母ハ巨勢氏元祿中綱吉公紀邸ヲ過ギ其妾子頼職頼方ニ邑ヲ與ヘテ列侯ト為ス其封邑ミナ越前ニ在リ秩並ニ二萬石既ニシテ紀公老ヲ告グ世子綱教立ツ綱教薨ジテ嗣ナシ弟頼職立ツ頼職薨ズ是ニ於テ頼方立テ名ヲ吉宗ト改ム家繼公疾大ニ漸ム其子無キヲ以テ宗室等相與ニ議シ紀公吉宗ヲ以テ嗣トナス正徳六年征夷大將軍ニ任ズ公嘗テ増上寺ノ祖廟ニ謁ス警蹕ノ士俯伏スルコト良久シキヲ見テ曰ク如此ナレバ則チ何ゾ非常ヲ警ムルヲ得ン自今以後輿既ニ至レバ即チ替首シ過グレバ則チ首ヲ擧グベキナリ其俯伏スル瞬息ノ間ニシテ可ナリ着シ否ヲサレバ則チ其職ニ稱ハサルナリト因テ其長ヲ責ム而ノ丸夫人嘗テ隅田川ニ如ク伊奈半左衛門忠達ニ命シ

テ道ヲ治メシム。忠達奔走百計シテ、花草ヲ募求シ、而シテ之ヲ堤上ニ種ユ。既ニシテ公之ヲ聞キ悦ビズシテ曰ク、婦女固ヨリ事ヲ解セズ。今仲冬ニシテ、千林搖落シ、百草枯萎スル時ナリ。其ヲシテ自然ノ風色ヲ視セシメテ可ナリ。以テ不時ノ花草ヲ募求シテ、一時月ヲ娛メシカ、夫人若シ此地ハ常ニ如此ト為ハ、則チ之ニ非ヲ教ウルナリト。

公嘗テ廣尾里ニ游ブ。途ニ赤羽ヲ過グ。忽チ新築ヲ見、鷗ノ集リ没ブヲ見。之ヲ捕テ樂ム。遂ニ將サニ中橋ヲ渡ラントス。陪從者モ亦之ヲ見テミナ將サニ遷ラントス。公左右ニ問フ衆何ヲカ為ルゾト。對曰ク、殿下廣尾ニ如ク。毎ニ赤羽橋ヨリス。而シテ今マサニ中橋ヲ度ラントス。故ニ衆モ亦

ハル者。小事ナリト雖ト云、而カ、常ニ變ルル公不祥ナリ。且、既ニ道路ニ命ジテ之ニ違スハ、是信ヲ失フナリ。信ハ國ノ寶ナリ。若シ信ヲ失ハ、則チ何ヲ以テカ衆ヲ御セン

公府下ノ屢火災ニ罹ルヲ憂ヒ、或ハ防火使ヲ増シ、或ハ街卒ヲシテ城中ニ入り邸第ノ火ヲ救ハシム。府下、ハト竹茅ヲ以テ葺クモノ多シ。因テ悉ク店肆ヲ改造シテ瓦屋トナサシメ、諸侯旗下ノ士等ニ命ジ、漸ヲ以テ其宅ヲ改造シテ瓦屋トナサシメ、或ハ金ヲ貸シテ其費ヲ給シ、又巡行失火

官ヲ置ク。後チ稍々祝融ノ患ヲ除ク。綱吉公ノ時、諸士多ク色ヲ以テ進ム。故ニ士風軟弱ニシテ、以年ミナ粉ヲ傳ク。裝容遊治子ノ如ク、勇武ヲ卑視ス。公立

チ。風ヲ化シテ古ヘニ復セント欲ス。故ニ畿カニ朝鮮馬場
ニ如キ。諸士ヲシテ武ヲ講ジ馬ヲ調セシメ。之ヲ觀ル毎ニ
輒チ金幣ヲ賜フ。或ハ隅田川ニ如キ。先驅ノ武士ノ游泳。及
ビ卒伍ノ銃ヲ放ツヲ觀ル。是ニ於テヤ。數年ナラズシテ士
風大ニ化シ。射騎ヲ善クスル者。千ヲ以テ數ト。上下ノ武藝
大ニ進ム。

公常ニ儉素ヲ用ウ。而シテ義ノ儉スベハシナクハメノアレ
ハ。則チ斷然之ヲ行フ。元祿中。大板金ヲ改鑄シ。其銀銅ヲ和
スルヲ以テ。舊制ニ比ブレバ。其質頗ル粗惡ナリ。公曰ク。大
板金ハ國家最上ノ貨幣ナリ。質ノ惡キ者ヲ以テ行フベカ
ラスト。享保十年。令ヲ發シ。改鑄スルニ純金ヲ以テス。是ニ
於テ。大板金。銀。銅。三種。復。鑄。ス。公。嘗。テ。小。民。鑿。ヲ。知。ラ。ズ。右ノ

ノ藥ヲ糶ハル。用ト能ハズ。而シテ。天壽ヲ失。折スルヲ。憐レ
シ。東。鑿。寶。鑑。普。救。類。方。ノ。屬。ヲ。印。刻。シ。テ。世。ニ。行。ヒ。或ハ救急
ノ藥方ヲ書シテ。民間ニ頒與シ。又直警ガ民間ノ病ヲ治
スルモノヲ聞キ。其寓直ヲ免ジ。因テ。以テ。汝ク。仁愛ヲ。民ニ
施コス。

寛保三年癸亥ノ秋。令シテ諸有司ヲ戒ム。其一ニ。ク宗家
タル者ハ。宜ク子弟及ビ宗族ヲ戒ムベシ。其二ニ。曰ク宴安
ハ。鴆毒ナリ。當サニ之ヲ慎ムベシ。其三ニ。曰ク。賓客ノ奉豐
饒ナルコトナカレ。其四ニ。曰ク。諸尹長嚴ニ賄賂ヲ禁ジ。且
ツ物ヲ玩ブベカラズ。物ヲ玩ベバ。則チ人其好ム所ニ乘ジ
テ。諂諛ス。其五ニ。曰ク。奢靡ヲ禁ズ。其六ニ。曰ク。儉スルモ度
ニ過グベカラズ。其七ニ。曰ク。商賈小人ヲ近クベカラズ。

公嘗テ御用御側澁谷良信ニ謂テ曰ク聞ク世子家重
舞ヲ善クスト。禮ニ成童象ヲ舞フ。從來スルコトアリ。且ツ
舞ハ能ク身體ヲ動搖シ。血脈流通シ。病ヲ生ゼズ。亦養生ノ
術ナリ。然リト雖ドモ屢舞ヒ節スルコトヲ知ラザレバ。則
チ物ヲ玩ビ志ヲ喪フ。余ノ屢獵スルハ之ヲ樂ムニ非ルナ
リ。衆ヲ率斗師ヲ用ウルノ道。之ヲ舍テバ則チ以テ習フナ
シ。且ツ士風ヲ厲マシ武技ニ熟ス。將ニ是ニ次ニ在ラン
トス。士人ノ懦弱ナル浸剛毅ニ向フ。ミナ職トシテ是ニ之
レ由ル。然ラズンバ則チ徒ラニ兆民ヲ寵敬シ。已レノ欲ニ
從フナリ。豈ニ人ヲ治ムルモノ。為ス所ナラムヤ。近日諸
侯徃々之ニ效ヒ。天下悉ク武備ヲ知ル。今國家太平ナリト
曰クト雖ドモ。而シテ尚ホ未ダ刑罰ヲ用ヒ。分ルニ至ラズ。

獄訟モ亦少シトセズ。動モスレバ大辟ノ罰アリ。余ヲシテ
江南ノ泣アラシムル者。ミナ余ガ不徳ニ由ル。一日萬機ア
リ。何ヲ以テカ詠歌舞蹈。以テ日ヲ曠フシテ怠偷スベケン
ヤ。余職ニ在ル今ニ二十年。數年ナラズシテ將サニ世子ヲ
シテ余ガ師ヲ統ベシメントス。世子既ニ立ツ。則チ宜ク良
臣ヲ選ムテ之ニ任スベシ。民ヲ憂フルコト。朽索ヲ六馬ヲ
馭スルガ如クナリ。慎マザレベケンヤ。良信以テ世子ニ告
グ。
享保ノ末。天下頻リ三年アリ。都下穀極メテ賤シ。斗米直ヒ
三錢四分餘。大倉ノ米。每斛六斗五升。直小板一金。小臣大ニ
窮ス。令ヲ出シ府庫ヲ發キ。五百石以下ノ者ニ貸シ。且ツ諸
侯ニ命ジ各自ニ積貯セシメ。以テ水旱凶荒ノ備トナス。既

ニシテ愈賤シ。十六年辛亥ノ秋、有司ニ命ジ、諸州ノ粟米ヲ
糶シ、以テ倉廩ニ實ス。元文元年ニ及ビ、尚ホ小板一金ヲ以
テ、米一斛五斗ニ買フ。因テ令ヲ下ダシテ米價ヲ定ム。商估
比周シテ米ヲ買ハズ。公怒テ、亟、民ニ令スレドモ、猶ホ從ハ
ズ。官年々米ヲ買フ數十萬石。後チ朽蠹シテ用ウベカラザ
ルニ至ル。卒ニ粟數千石ヲ棄ツ。市人公ヲ謂ハ、失穀翁ト曰
フ。是年金銀ニ幣ヲ改鑄シ、款文ヲ文ト曰ス。故シテレハ文
字金文字銀ト稱ス。六月始メテ新幣ヲ行フ。直ヒミナ舊ノ
如シ。享保ノ後、是歲始メテ改元ス。故ニ都下ノ民謳テ曰ク、
維、ニ元ヲ改ム。幣モ亦々悛マル。穀翁獨リ、何ゾ變ゼザルト
櫻所子曰、徳川氏初メテ國政ヲ執ルニ方リテハ、干戈漸ク
収マリ、斯民トモニ休息スルヲ以テ施政ノ要トス。故ニ

其政質率簡易ナリキ。質率簡易ノ故ヤ。悉ニシテ野ナリ。故
ニ其中蕪ニ及ムデハ、之ヲ兼クルニ文ヲ以テス。文ク敝ヤ。
漸ク奢侈ニ趨リ、巧詐ニ傾ク。綱吉公以來、文敝漸ク進ム。吉
宗公紀侯ノ庶子ヨリ起リ、身險阻艱難ヲ歷嘗シ、親ク民ノ
情偽ヲ知り、慨然トシテ善治ニ志アリ。故ニ之ヲ兼クルニ
儉素ヲ以テシ。士風ヲ振起シ、奢侈ヲ節抑シ、廢滯ヲ興、
貧乏ヲ匡シ、災患ヲ救ヒ、淫慝ヲ禁ジ、罪戾ヲ宥ム。器用ヲ節シ、
内外嬖寵ナク、諫ニ從フコト流ル、カ如ク、言路ヲ洞開シ、
教化大ニ行ハレ。士其能ヲ精フシ、吏其職ニ稱ヒ、民其業
安ムシ。貨幣ヲ改鑄シ、米粟ヲ貯蓄シ、家給シ人足リ、貫朽
粟陳シ、中興ノ偉業。祖先ニ超駕シ、後裔ニ垂裕ス。徳漢文ニ
輝シト謂フベシ。公何ヲ以テカ能ク如此ナル。其心ヲ治ニ

用ウルノ縹密ナルヲ以テナリ。何ヲ以テカ之ヲ知ル。曰ク
前二列記スル所ノ如ク。西城夫人ノ隅田川ニ如ク。花草ヲ
堤上ニ種タルヲ聞キ。其自然ノ風色ヲ視セシメガリシヲ
責メ。又廣尾ニ遊ブニアタリ。マサニ中橋ヲ渡ラントスル
ヲ止メ。赤羽橋ヲ過ギ。人ヲ治ムルモ。ハ小事ト雖ドモ。信
ヲ失フ。バキモノニアラス。信ハ國ノ寶ナリトイフ。其火災
ヲ豫防シ。武藝ヲ講セシメ。醫書ヲ刊行スル等。氏ヲ利スル
事ニ於テ。周密懇到ナラザルハナシ。宜ナル哉。徳川氏ノ業
將サニ漸ク衰ント欲シテ亦振フニ至レルコト。一國ヲ統
宰スル既ニ此ノ如シ。一身一家ヲ脩齊スル。亦勢同ジカラ
ズト雖ドモ。理ハ則チ一ナリ。若シ粗豪ヲ以テ身ヲ立テ家
ヲ興ス。ズシトシ。浮梁ニシテ富貴利達ヲ取ラントスルモ。

第十八 並河簡亮其門人ト語りタル事

並河簡亮ハ。京都ノ人ナリ。初メ伊藤仁齋ニ從テ學ズ。天性
剛決ニシテオヲ負フ。其學尚書論語孟子二本ヅキ。經世濟
民ヲ以テ志ト為ス。毎ニ所謂訟ヲ聽クコト吾猶ホ人ノゴ
トクナリ。必スヤ訟無カラシメン乎。及ビ如シ我ヲ用ル者
アラバ。吾レ其レ東周ヲ為シカ。苟クモ我ヲ用ル者アラバ。
朞月ノミニシテ可ナリ。三年ニシテ成ルアランノ數語ヲ
稱シテ曰ク。此レ聖人才徳ノ本領ナリト。奮然トシテ已レ
ガ任ト為ス。嘗テ蝦夷地方ヲ以テ内屬ト為サントス。而シ
テ年僅カニ四十。其志ヲ果サズシテ歿ス。識者之ヲ惜ム。
東涯ガ曰ク。簡亮ハ誠ニオアリ。然レドモ以テ六尺ノ孤ヲ

託スベカラズト。他日簡亮之ヲ聞テ曰ク東涯ハ實ニ善ヲ
 知ル。吾之ヲ人ニ奪フモ未ダ自ラ知ルベカラザルナリ。人
 ノタメニ奪ハル、ニ至テハ決テ之レナシ。東涯ハ之ニ及
 スト。一日門人相集テ謂テ曰ク。先生若シ志ヲ得バ。吾儕ヲ
 シテ何事ヲカ管セシメント。座ニ一人アリ曰ク。余ノ不才
 ナル。先生ノ素ヨリ知ル所ナリ。但、倉廩ヲ守ラバ。則チ一掬
 ハ米ト雖ドモ敢テ之ヲ私シセズト。簡亮曰ク。爾ガ如キ
 者ヲシテ奈何ゾ。倉廩ヲ守ラシムベケンヤ。其人色ヲ作シ
 テ曰ク。先生余ヲ以テ廢ナラズトスルカ。簡亮笑テ曰ク。否
 テズ。物ヲ竊ムノオアル者ハ人ノ為メニ竊マレズ。爾ガ能
 ク人ノタメニ竊マレザランヤト。

楊所著曰簡亮嘗時在寺。經書ヲ以テ自ラ修シ。蝦蟇地ガ

フ以テ内鬻ト為サレトス。識見アル者ト謂フベキナリ。コ
 レヲ彼ニ書卷堆裡ニ呻吟シ。終身膏魚ト伍スル者ニ比ス
 レバ。固ヨリ日ヲ回フシテ語ルベキモノニ非ズ。故ニ其言
 フ所自カラ活動マルモノアリ。則チ東涯ガ言ヲ聞キ。吾之
 ヲ人ニ奪フモ自ラ知ルベカラザルナリ。人ノ為メニ奪ハ
 ル、ニ至テハ決シテ之レナシ。東涯ハ之ニ反ストイ。其
 門人ノ倉廩ヲ守ラバ。一掬ノ米ヲモ私シセズト云フヲ笑
 ヒ。物ヲ竊ムノオアルモノハ。人ノ為メニ竊マレズトイフ
 モ。是ナリ。元和鞆索以來。儒者ト稱セラル、モノ多ホシ
 トイヘ氏。其學概ネ實用ニ適セズ。往々腐儒迂僻ノ嗤リヲ
 免ヌガレザリシ所以ノモノハ。他無シ。人ニ奪フノオナキ
 ヲ以テ。人ノ為メニ奪ハル、コトヲ知ラズ。清蕪自ラ信ズ

ル學シト雖ドモ、貪汚ナル者ノ其欲ヲ逞フスルヲ知ラズ、
是ヲ以テ自ラ活動ノ妙用ヲ、其學問知識ニ兼備セザルカ
故ナリ。今ノ歐學ヲ脩ムルモノモ亦然リ。曰ク經濟曰ク法
律、曰ク何曰ク何、其學習スル所ニ拘束セラレ、毫毛活動ノ
妙用ナクンバ、則チ從來ノ漢學者流ト異ナルナク、消食ノ
書籠、解語ノ字典タルノ嗤リヲ免ヌガレザルベシ。是何ヲ
以テ然ルヤ。曰ク其學ヲ脩ムルニ方リ、徒ニ文章字句ニ泥
ス、其心ヲ用ウル周到縝密ナラズ、所謂二五ノ十タルヲ知
テ、而シテ二五ノ七アルヲ知ラザルニ坐スルノミ、簡亮ノ
如キ、其意ヲ用ウルコト縝密ニシテ、善ク新意ヲ法度ノ外
ニ拈出セルモノト謂フベキナリ。

第十九 木勝吉直諫ニ對シテ密行多ク切實

木勝吉、蓬萊ト號ス。尾張荊安賀村ノ農夫ノ子ナリ。歳十二
ニシテ江戸ニ來リ、物茂卿ニ謁ス。幾クモ無ク茂卿歿ス。乃
チ郷里ニ歸リ力學スルコト年アリ、後チ京都ニ赴キ、講說
シテ業ト為ス。名聲都下ニ噴々タリ。勝山侯酒井忠鄰、二條
城ヲ護ス。曾テ其名ヲ聞キ、之ヲ聘ス。禮遇頗ル厚シ。遂ニ文
學ヲ以テ之ニ任ス。延享中、侯駕ニ從テ江戸ニ來ル。初、蓬
萊ガ勝山ノ儒員トナルニ當リ、俸米僅カニ十五口ナリ。然
レドモ其苟合ヲ欲セザルヤ、敢テ其妻妾ノタメニ口ヲ斗
弁ニ餽スルニアラズ。侯ノ能ク其已レヲ知テ優遇シ、以テ
為スコトアルガ為メナリ。侯マサニ大ニ用ントシ、之ニ藩
政ヲ委任ス。半途ニシテ館ヲ捐ツ。其世子封ヲ護フ、後チ
ニ及ビ、封内歲饑工用足ラズ、諸臣賜ヲ止ム。終ニ蓬萊ニ儉

セ、其隆禮以テ視ルベシ。其他敬待率、此類ナリキ。

蓬萊ガ経義ヲ講説スル。善ク近ク喻ヲ取テ教諭ス。言語明
爽。頗ル中江藤樹ノ人タルニ似ケリ。故ニ至愚ノ人ト雖ト
モ其旨ヲ領了シ。師徳ヲ仰慕ス。常ニ謂ク白鷗水ニ在テ悠
然トシテ浮ブ。清閑自得シ。而カモ其足ハ蹊擾ニシテ以ク
モ息フコトヲ得ズ。是ヲ以テ其性ヲ失ハズ。人ノ世ニ處ル
モ亦此ノ若キノミト。

蓬萊資性直諒ニシテ。類ネ密行多シ。齋居獨處スト雖トモ。
皎然トシテ自ラ欺カズ。其書生タル時嘗テ酒樽ニ飲ム。娼
妓ノ絃歌ヲ善クスルモノ。二人ヲ知ル。其後チ二人主人ノ
為メニ逐ハル。依頼スル所ナシ。來テ蓬萊ガ家ニ寓センコ
トヲ請フ。蓬萊之ヲ隣ニ入ヲ家ニ置ク。之ヲ遇スルコト

賓客ハ若シ未ダ嘗テ媒御ヒズ。自ラ謂フ。滿ヲ嚮キニ樓ニ
在ラハ妓タリ。今ハ則チ處婦タリ。卑賤ノ者ニ非スト。之ノ
安撫スルコト愈厚シ。其資裝ヲ整テ之ヲ嫁ス。人ニナコレ
ヲ賢トス。蓬萊少キ時家貧フシテ常ニ十日ノ食無シ。流氓
男女來テ門外ニ立テ食ヲ乞フモノアレバ。米糲ヲ倒シテ
コレヲ與フ。蓬萊常ニ人ニ語テ曰ク。己レ不善ニシテ人ノ之
ハ譽ム。以テ喜ト為ス。ニ足ラバ。己レ善ニシテ人ノ之ヲ毀ル
以テ憂トナス。ニ足ラスト。明和二年十月。駒籠ノ邸舎ニ歿
ス。年五十一ナリ。

櫻所子曰蓬萊農家ニ生長シ。遂ニ勝山侯ノ敬待スル所ト
ナル。其學識為スアルニ足ルモノナルベシ。而シテ其直諒
ニシテ密行多キト。世ノ毀譽ヲ以テ喜戚ヲ為サバルトハ。

最モ其敬待ヲウケタル所以ノ本ナルベシト思ハル。何ト
ナレバ世人ノ最モ難キ所ヲ行ヒタルヲ以テナリ。視ヨ今
世ノ人士ノ為ス所ヲ視ヨ。曰ク交際ヲ廣フス。曰ク事業ヲ
興起ス。曰ク歐米ノ學術ヲ研磨ス。而シテ其心ニ求ムル所
ハ何ゾヤ。以テ名聲ヲ社會ニ得ント欲スルニ外ナラサル
トリ。タマタマ其素行ノ脩マラサル等ノ事ヲ以テ。此ヲ諷
シ此ヲ諫ハルモノアレバ。之ヲ視ルコト蛇蝎ノ如クシ。頑
陋ニシテ共ニ齒スルニ足ラサル者トスルニアラザレバ。
則チ妬忌以テ人ノ名譽ヲ害スルコトヲ好ムモノナリト
ス。安ゾ知ラン其言論河ヲ懸ケ。文章珠ヲ貫ヌクガ如クナ
ルモ。言行相反スルノ舉動。自ラ掩フベカラサルモノアル
コトヲ。之ヲ再言スレバ。已レ不善ニシテ人ノ之ヲ毀ルヲ
喜ビ。已レ善ニシテ人ノ之ヲ譽メ。サルヲ憂ヒ。蓬萊ガ謂ノ
所ト相反スルニ由ル。是他ナ。稠人廣坐ニ在テハ。言文ニ
シテ行ヒ正シクモ注意周到ナル。齋居獨處ノ時ニ於テハ。
醜ヲ漏ラシ陋ヲ露ハシ。其心ヲ用ウル縝密ナラサルヲ以
テナリ。且ツ夫ノ台徳公ガ波奈女ニ於ケルガ如キ。富貴ノ
人ニシテ。殊ニ具瞻ノ地位ニ立ツモノニ於テハ。自ラ重ム
ズル所アルベキ理ナレバ。深ク恠訝スベキニ非ズ。然カル
モ人猶ホコレヲ賢トス。然ルニ蓬萊ハ一寒儒ノミ。二人ノ
娼妓ヲ其家ニ置ク。之ヲ遇スルコト賓客ノ如クシ。敢テ婢
狎セサルニ至テハ。其自ラ重ムズル所ノ徳操。最モ常人ノ
為シ難キ所ナリ。蓬萊此二個ノ難事ヲ躬行ス。マタ以テ後
人身ヲ脩ムルノ模範トナスベキナリ。

第二十 二老人其家ヲ富マシタル事

太田錦城ノ梧窓漫筆ニ曰ク。下野ノ鹿沼ニ住スル一老人アリ。終身其門前ノ水流ニシガラミヲ為シテ。流レ止マル朽木古木ヲ集メ。之ヲ焚テ。家人湯浴ノ用ニ供ス。其家大福ヲ發シ。其子ニ博學能文ニシテ。君子長者ノ風アル人ヲ生ジタリ。武蔵ノ本莊ニ住セル一老人。終身其門前ノ馬糞ヲ掃ヒ取レリ。此モ其家ハ大福ヲ發シ。子孫ニハ學者ヲ生ジタリ。

櫻所子曰錦城斯二事ヲ記シテ。而シテ自説ヲ録シテ曰ク。去ハ大福ヲ發シテ子孫モ榮昌ナラントニハ。勤儉ニシテ。積蓄ナル氣象アルモノニ非レバ能ハサルコトナリ。開國創業ノ人トテ。同ジコトナリ。然ルニ粗豪浮躁ナル氣象

ニテ。徒手ニテ萬金ヲ得シ。一家ヲ起シ。ナド願フハ。博徒流ノ餘習ニテ。天地ノ間ニ此理此事アルコトナシト知ルベシト。善哉言ヤ。思フニ昔在武門權ヲ專ニシ。農工商估ヲ賤視シタル時ニ於テハ。其士タル者ハ禮義ヲ尊トヒ。廉耻ヲ重ムシ。苟モ利ヲ言フヲ耻ルガ如キ風尚アリ。然ルニ開港貿易。富強ヲ海外諸邦ニ競ハザルベカラザルヲ知ルニ至リ。火輪ノ船。電信ノ機。通國ニ偏ネク。而シテ才俊ノ士往往カヲ陶味。猗頓ノ業ニ致ス。斯民ヲ利濟セントスルモノ相踵デ起ル。而シテ爭利ノ風。漸ク熾ナルニ隨テ。廉耻ノ習。漸ク薄キモノ。如シ。然ルニ其利ヲ講スルモノ。輒チ曰ク。我豈ニ一身一家ノタメナランヤ。亦是レ天下國家ヲ利スルガタメナリ。一事ヲ創メ一業ヲ興ス。則チ輸出入ノ權衡

ヲシテ其平ヲ得セシメ、以テ國家富強ノ根柢ヲ培ハント
 スルモノナリト公言ス。其言ハ太ダ善且美ナリト雖トモ、
 其為ス所如何ヲ察スレバ、巨滴大賈ト雖トモ、往々其産ヲ
 破リ才俊ノ士ト雖トモ、間亦失敗ヲ取ル。物産未ダ甚ダ増
 殖スルニ至ラズ、製造未ダ甚ダ殷盛ナル一に至ラズ、復何ソ
 夫ノ書生輩ガ、經濟ノ術ヲ談ジ、理財ノ説ヲ演ベ、而シテ自
 家ハ翻テ生計ニ困ムモノ多キヲ恠マンヤ。試ニ視ヨ。目今
 社會ノ上流ニ位シ、陶倚ノ素封ヲ有スト稱セラル、紳商
 ト雖トモ、或ハ投機者流ト同視セラル、コトヲ免ヌガレ
 ズシテ、充分ニ社會ノ信用ヲ得タル者ハ幾ンド希ナリ、而
 シテ其等ノ紳商ハ、孰レモ昭世ノ氣運ニ乘ジ、衆庶ニ率先
 示ルノ任ニ當ル所ノ才俊ニシテ、官民ノ交際廣カラザル

ニアラザルハ、勿クハ從來世故ニ經歷ス所、鍊熟セ、勿クハ
 テザルナリ、而シテ其為ス所ノ、或ハ蹉跌シ易クシテ、而シ
 テ社會ノ信用モ亦太ダ減却スルモノ多キハ、果シテ何ノ
 故ゾヤ、吾以為久、是レ他無シ、今ノ紳商ト稱セララル、輩ハ、
 其經歷ニ熟鍊シ、才智ニ富ミ、交際亦廣ク、資本多シ、ゆラズ、
 完備ナラザルハナキモノ、如クナリト雖トモ、唯勤儉ニ
 シテ、縝密ナル氣象ニ乏シク、勤モスレバ、粗豪浮躁、意氣
 コ逞ヲシ、細瑣ナル利害ニ意ヲ用ウルコトナク、伎手ニシ
 テ、萬金ヲ攫シ、空拳ニシテ、大利ヲ博セントスルカ如キ、賭
 博者流ト一般ナル行爲ノ、往々世人ノ耳目ニ呈露スルコ
 トアルヲ以テ、自カラ社會ノ信任ヲ取ルコト、極メテ薄弱
 ナルヲ致スモノナルベシ。若シ夫ノ紳商輩ヲシテ、勤儉ニ

シテ縝密ナル氣象アリ。之ニ加フルニ勤勉ニシテ久キニ耐忍セシメハ、社會ノ信任ヲ得サント欲スト雖ドモ亦得ベカラサルナリ。

第二十一 瀧鶴臺ノ妻絲團ヲ袖ニ藏セル事

瀧鶴臺ハ萩藩ノ士ナリ。學識徳望並高シ。同藩士某氏ノ女名某トイフモノアリ。面貌醜黑眉目夜叉ノ如シ。筭スルニ及ンデ人之ヲ娶ルモノナシ。其父兄之ヲ憫ミ曰ク。若シ之ヲ娶ルモノアラバ、賤人ト雖ドモ之ニ嫁スルコトヲ許サント。而シテ某ハ翻テ耦ヲ選ビ。常ニ人ニ語テ曰ク。鶴臺先生ノ如クナル人ヲ得テ。所夫トスレバ則チ足ハル人ミナ之ヲ哂フ。鶴臺之ヲ聞テ曰ク。此レ我が知己ナリ。必ス善ク内ヲ治メシト。遂ニ其家ヲ娶ル。其婦其事ヲ執

ル婉順聽從ナラザルハナシ。而シテ鶴臺客ト語ル某常ニ屏後ニ在テ之ヲ聽ク。談或ハ忌諱ニ觸ル、モノアレバ則チ之ヲ諫止ス。居ルコト數年。一日周旋ノ間忽チ赤絲團アリ。其袖ヨリ出デ、地ニ墜チタリ。鶴臺恠ムデ之ヲ問フ。某赧然トシテ曰ク。妾ガ愚ナル。平日事ヲ行フ。悔ユベキモノ多シ。意其過チヲ以クセント欲ス。因テ嘗テ赤白二個ノ絲團ヲ製シ。平常之ヲ雙袖中ニ藏ス。若シ惡念アレバ則チ赤絲ヲ結ビ。若シ善念アレバ則チ白絲ヲ纏フ。一二年間赤團ハ蓋大ニシテ白團ハ依然タリ。是ニ於テ惕然トシテ自ら反省シ。更ニ慎戒ノ工夫ヲ加ス。今赤白二團ヲ較ブルニ。其大ニ相埒シ。此レ亦良人薰陶ノ致ス所ナリ。但、未ダ白團ノ赤團ヨリ大ナルヲ見ザルノミト。更ニ一白團ヲ袖中ヨリ

出シテ以テ之ヲ示ス。

櫻所子曰。古來貞淑ヲ以テ稱セラレ、者其人ニ乏シカラズ。然シテ未ダ此ノ如ク其克己精到縝密ナルモノアルヲ聞カス。謂ツベシ。容貌ヲ醜惡ニシテ、心識ヲ美麗ニスルモノナリト。世ノ外面ヲ菩薩ニシテ、内心ヲ夜叉ニスルモノト固ヨリ日ヲ同フシテ語ルベキニ非ズ。

第二十二 頼彌太郎文士疎懶ノ習氣ナカリシ事

頼彌太郎春水ト號ス。藝州竹原ノ農家ニ生マル。幼ニシテ好ムテ筆硯ヲ弄ス。寒郷絶テ師友ナシ。其家蓄蔵スル所ノ書僅々數冊ノミ。乃チ村塾ノ字ヲ識ル者ニ就テ句讀ヲ受ク。又字ヲ習ハント欲ス。偶烏石山人ノ千字文ヲ得テ之ヲ鈎摹シ。持歸テ臨學ス。年十九ニシテ、疾ニ罹リ塾ヲ上國ニ

求ハ。堺ニ至リ趙陶齋トイフ者ニ逢フ。陶齋ハ書ヲ善クスルヲ以テ名アルモノナリ。一タビ春水ヲ見テ之ヲ奇トス。春水師友ヲ求メ、伏水ニ寓ジ。マダ新天滿港ニ移居ス。春水始メ詩名ヲ得。又筆札ヲ以テ名四方ニ噪ハク。既ニシテ洛陽ノ書ヲ讀ミ。尾藤二洲、古賀精里、中井竹山兄弟、西山拙齋、菅茶山等ト毎ニ相切劘ス。其名聲漸ク起ルニ及ビ。本藩安藝侯命ヲ傳ヒ。擢テ、儒員トス。春水タマタ藩侯ノ命ヲ奉シ。江戸ノ藩邸ニ來リ。世子ニ伴讀ス。從來儒士ノ進講伴讀ノ如キ。故事ニ充ルニ過ギサルノミ。然ルニ春水、草野ヨリ擢テラレ。孤立シテ援クルモノナキモ、輔導ヲ以テ已レガ任トシ。誓テ其學ヲ所ニ負ムカズ。以為ク世子幼齡ニシテ、學ニ就ク自カラ厭怠ヲ生ゼン。然レバ則チ必ズ廢棄ス

ルニ至ラント、首メ小學題辭ヲ進講スルヤ、汎ク和漢ノ事
跡ヲ援キ、次ギニ孝經論語ヲ講ズルモ亦然カリ、必スシモ
文字章句ニ拘泥ヒズ、意義ノ暢達シテ解シ易キヲ旨トス、
世子亦之ヲ聽クヲ喜ブ、或ハ其遊戯玩好ニ因リ、物ニ觸レ
事ニ視ラヒ、以テ民ノ疾苦ヲ知ラシム、春水ガ世子ノ徳ヲ
養フ講誦ニ止マラズ、春水此ノ如クスルモノ凡ツ十一年、
後ハ世子封ヲ讓フニ及ビ、仁慈ニシテ果斷、内外其賢ヲ稱
スルモノハ、蓋シ春水ガ輔導ハ、少シトセズ、春水素ヨリ
方正嚴毅ヲ以テ憚カラル、一盤一滑、誓ヲ以テ進ムモノア
リ、常ニ諸士ニ狎戯ス、侯曰ク頼彌太郎ニ逢フモ亦能ク此
ノ如クスルカト、暨黜シテ退久、春水ノ人トナリ、軀幹偉ナ

ク、而シテ之ヲ望ムニ威アリ、短面廣額ニシテ、眼光炯々

タリ、稟性方正剛峻ナル、妻子ト雖ボモ、未ダ常テ其懽容ア
ルヲ見ザリシトイフ、故ニ衣久シク服スト雖ドモ、毀損亂
レズ、食スルニ臨ミテハ、盤碟匙筋、措置常アリ、其此ノ如ク
ナルヲ以テ事ニ處スル勤敏ニシテ、毫モ文士疎慵ヲ習ナ
シ、其家ヲ治ムルヤ、器什ヲ區處シ、帳簿ヲ精備シ、故紙敗簡
ト雖ドモ、整頓題署シ、儉素ヲ以テ自ラ律シ、清廉ヲ以テ自
ラ慎ム、一介苟モ取與セズ、自ラ奉スル所、或ハ人ノ堪フ能
ハザルモノアリ、而シテ窮困ヲ撫恤スルニ至テハ、未ダ嘗
テ吝惜セズ、其歿スルニ先ダツ數年、一書ヲ織紉シテ、門生
ニ付シテ曰ク、我が歿スルニ及シテ之ヲ披ケト、披ケバ則
チ悉ク後事ヲ處分シテ、曲盡セザルハナシ、曰ク、雙刀一槍、
是家ノ舊物ナリ、蔵書ハ處士タリシヨリ、辨置スル所、我が

膏血タリ。子孫善ク之ヲ愛護セヨ。他亦何ヲカ怪マンヤ。廉
潔ハ二字ハ。是我ガ家ノ精神ナリ。我ガ歿スルノ後チ。唯吾
ガ戚族。或ハ汚名ヲ得テ。以テ祖德ヲ累ハサンコトヲ慮カ
ル。他ハ復タ何ヲカ憂ヘンヤト。歿スルニ臨ミ。又人ヲ情フ
テ存禄セシム。曰ク某物ヲ借ル當サニ返スベシ。某物ヲ買
フマサニ直ヒヲ償フベシト。其清介ニシテ。縝密ナル此ニ
類ス。又春水若フシテ遠ク遊ビ。發生疾ヒヲ慎ミ。聊カモ其
父ヲシテ憂ヒガラシメンコトヲ誓フ。時ニ歸省スル未ダ
嘗テ期ヲ愆マラズ。マタ母ノ發世シテ諸子ノ成立ヲ見ル
ニ及バザルヲ痛シ。毎ニ言詠ニ見ハル。外艱ニ丁タルニ及
シ。葬祭禮ニ遵ヒ。年月久遠ナリト雖トモ。忌辰ニ遇フ毎ニ
滄容アリ。遺體ヲ保護シテ。跽坐ノ間モ之ヲ忘レズ。幼時得
ル所。ニ親戒飾ノ書。諸レヲ懷袖ニ藏ニシテ身ヲ終フ終リニ
臨ミ其胎髮脱齒ヲ并ハセ。棺ニ納レシム。言フ能ハザルニ
至リ。又片紙ニ書シテ遺囑シテ曰ク。座右第幾匣。臍帶アリ。
亦自ラ隨ント欲スト。其全ク歸スルノ志念。死シテ後チ已
ム者此ノ如シ。春水邪ヲ憎ミ。姦ヲ惡ム。社々其非ヲ面斥ス
ルニ至ル。穢行惡德ノ人ノ如キハ。其姓名ヲ聞クヲ欲セズ。
然レドモ人ニ對シテ城府ヲ設ケズ。酬答洒落。時ニ詼諧ナ
錯ユ。其病大ニ漸ムニ至ルマデ。疾ニ侍スルモノ。未ダ嘗ク
叱責ヲ被ムラズ。平素屬吏僕從。服從シテ護レズ。其歿スル
ニ及ビ衰厝セザルハナシト云フ。
櫻所子曰。春水ハ子成ノ父ニシテ。當時文壇ニ旌旆ヲ樹ル
モノナリ。而シテ當時儒士ノ風。概ネ疎傲ニシテ。口ニ常ニ

經世濟民ヲ談ジ。修身齊家ヲ説クト雖トモ。兼行修マラス。
詩酒ニ耽ケリ。風月ヲ嘲罵シ。毫モ積密ノ行ヒナシ。故ニ其
子弟タルモノ亦之ニ摸倣シ。道德仁義ヲ以テ經書ノ事ト
シ。轟飲放吟ヲ以テ。儒生ノ本色トシ。讀書ハ徒ニ傲放ノ具
トナリ。詩文ハ啻ニ諛言ヲ粧飾スルノ器ニ非レバ。則チ世
ヲ弄ソビ時ヲ毀ルモノ、ミ儒風ノ衰敗亦極ルト謂フベ
シ。此ヲ以テ世人ガ其子弟ヲシテ學ニ就カシムルハ。翻テ
凶身喪家ノ基トナルモノ、如ク看倣シタルモノ、亦タ所
以アルナリ。春水其時態ニ眩セズ。屹然トシテ持立スル所
アリ。其嘗テ學ニ揭示シケル言ニ曰ク。子弟ノ習ヒ。膏ニ一
家ノ禍福ニ係ルノミナラズ。乃チ理教ノ醇否ニ關ハル。書
ヲ授ケ業ヲ課ス。カヤニ其初メヲ謹ムベシ。而シテ又宜ク

其資禀ヲ揣カリ。樂習倦マズ。外馳ニ暇マナカラシムベシ。
或ハ苛責嚴督。蒙士ヲシテ學舎ヲ視ルコト。圉圉ノゴトク。
師員ヲ視ルコト。蛇蝎ノ如クナラシム。或ハ一モ激動ナク。
曲從日ヲ曠フシ。媚ヲ父兄ニ取り。無數ノ才質ヲ賊フハ。
ナ教官ニ在リ。諸マサニ此意ヲ以テ相戒メ。以テ風勸養勵
ノ盛意ニ副フベシト。亦以テ春水ガ子弟ヲ教育スルノ大
要領ヲ見ルニ足レリ。又春水ノ江戸ニ在ル。白河侯始メテ
封ヲ讓ギ。召シテ道ヲ問フ。其封ニ入ルニ及ビ。春水之ヲ送
ル。曰ク。政ヲ為スハ寬猛相濟ニ在リ。跡異ニシテ趨一ナリ。
或ハ之ニ參フルニ術ヲ以テシテ。互ヒニ之ヲ用フルハ正
ニ非ルナリ。政ノ純駁ハ學ノ正邪ニ由ル。方今學術日ニ昇
薄ニ就ク。其人小ナレバ害小ナリ。其人大ナレバ害大ナリ。

為スアルノ資ヲ以テ。為スアルノ位ニ在リ。而シテ其學純
 正ナラズ。上ミ殘シ下モ慢スレバ。其レ道フニ勝フベカラ
 ズ。候敦ク吾學ヲ尚ブ。志ス所ノ者正大ナレバ。將サニ發セ
 ントスルモノ高遠ナル。他日民ニ施シ民ヲ糾ス。時ニ寬時
 ニ猛。風俗ヲ振ヒ。人心ニ感ズル。施トシテ宜シカラザルハ
 ナシ云々。由是觀之。春水ノ學ブ所亦以テ窺知スベキナリ。
 其子弟ヲ訓誨スル嚴ニ失セズ。緩ニ流レズ。其民ヲ馭スル
 ニ。寬猛相濟スヲ以テス。此ヲ以テ其他ヲ推究セバ。則チ財
 コ理ムル。節儉質素ヲ旨トシテ。佞諂ニ陷ラズ。其妻孥ヲ待
 嚴正ニシテ苛酷ニ至ラズ。其家政ヲ處理スル。縝密ニシ
 テ煩細ヲ事トスルニ及バズ。至竟寬猛相濟スノ旨趣ヲ以
 テ處世ノ要訣トスルニ足ルベシ。然ルニ德川氏ノ季世。太

平遊惰ノ風。都鄙ニ遍布シ。多ホク寬緩ニ失スルモノ。こ
 タマタマ此弊ヲ矯正セント欲スル者ハ。屢急ニ失シ。翻テ
 其志ヲ違スルヲ得ザリシカ如シ。夫ノ白河侯定信國ノ大
 鈎ヲ秉リ。有司ノ貪暴ヲ貶黜シ。而シテ廉直ヲ擧ゲ。吏風大
 ニ化シ。贈遺受クル所ナク。請寄聽ク所ノシ。諸侯ノ民。ノ患
 グミ節儉ヲ用ウルヲ賞シ。而シテ奢麗ヲ事トシ。嚴樂忘教
 スルヲ罰シ。諸士ヲ戒諭シ。武ヲ講シ。文ヲ學ビ。教化大ニ行ハ
 レ。德川氏ノ運。既ニ衰テ復々振フ。當時望ミヲ侯ニ屬セザ
 ルハナシ。是即予侯が政ヲ施ス所謂寬猛相濟ノ妙アリ。予
 以テナリ。而シテ其施治ノ妙ハ。侯が天性英敏ナルニ由ル
 ト雖トモ。抑モ亦侯が嘗テ春水ニ聞ク所。其政畧ニ裨ケア
 ルモノタリシハ疑フベクモアラズ。而シテ春水が此ニ著

意スル所以ノモノ。蓋シ疎傲ノ文士ニシテ、能ク思及スベ
キモノニ非ズ。方正ニシテ、縝密ナルヲ以テ、其造詣スル所、
亦尋常腐儒ノ得テ知ルベカラザル所ニ達スルアルヲ以
テナリ。豈啻ニ曩時ノ文人學士ノミトランヤ。今ノ歐學ヲ
修ムルモノト雖モ亦然リ。若シ其意ヲ用フル縝密ナラズ
シテ、夫ノ漢學者流ガ、文士疎慵ノ習ヲ遺傳スルアラバ、其
弊風マタ曩時ノ儒者書生ト一般ニシテ、世入ヲシテ學問
ハ身ヲ立テ家ヲ興スノ妨礙ナリト認ムラル、ニ至ラン。
思ハサルベケンヤ。